

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成30年5月29日
【事業年度】	第14期（自平成29年3月1日至平成30年2月28日）
【会社名】	株式会社スタジオアタオ
【英訳名】	STUDIO ATA0 Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 瀬尾 訓弘
【本店の所在の場所】	兵庫県神戸市中央区御幸通八丁目1番6号
【電話番号】	078-230-3370（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 管理部ゼネラルマネージャー 山口 敬之
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区銀座三丁目10番9号
【電話番号】	03-6226-2772（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 管理部ゼネラルマネージャー 山口 敬之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第11期	第12期	第13期	第14期
決算年月	平成27年 2月	平成28年 2月	平成29年 2月	平成30年 2月
売上高 (千円)	-	1,944,346	2,869,534	3,441,241
経常利益 (千円)	-	252,099	444,470	553,139
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	-	157,530	303,395	359,008
包括利益 (千円)	-	157,530	303,395	359,008
純資産額 (千円)	-	465,564	1,003,117	1,362,020
総資産額 (千円)	-	850,912	1,497,588	1,819,693
1株当たり純資産額 (円)	-	77.59	160.45	217.86
1株当たり当期純利益金額 (円)	-	26.26	50.10	57.42
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	48.57	55.71
自己資本比率 (%)	-	54.7	67.0	74.8
自己資本利益率 (%)	-	40.7	41.3	30.4
株価収益率 (倍)	-	-	37.13	46.32
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	90,055	262,303	199,372
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	89,959	49,374	62,636
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	53,841	239,238	23,349
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	-	246,686	698,854	812,239
従業員数 〔ほか、平均臨時雇 用人員〕 (名)	- 〔 - 〕	36 〔 4 〕	46 〔 6 〕	58 〔 6 〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 当社は第12期から連結財務諸表を作成しているため、第11期については記載しておりません。

3 第12期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載しておりません。

4 第12期の株価収益率は当社株式が非上場であるため記載しておりません。

5 第12期以降の連結財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

6 従業員数は就業人員であり、契約社員を含む臨時雇用者数は、年間の平均人員を〔 〕外数で記載しております。

7 平成28年9月16日付で普通株式1株につき1,000株の株式分割、平成29年9月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っておりますが、第12期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

8 当社は、平成28年11月29日に東京証券取引所マザーズへ上場したため、第13期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、新規上場日から第13期末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期	第14期
決算年月	平成25年6月	平成26年2月	平成27年2月	平成28年2月	平成29年2月	平成30年2月
売上高 (千円)	559,038	627,313	1,108,553	1,944,346	2,869,534	3,441,241
経常利益 (千円)	70,124	132,375	175,976	246,465	443,274	552,028
当期純利益 (千円)	44,150	82,095	117,555	152,174	302,596	358,287
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	10,000	10,000	10,000	10,000	127,079	127,079
発行済株式総数 (株)	200	200	2,000	2,000	2,084,000	6,252,000
純資産額 (千円)	108,383	190,478	308,033	460,208	996,964	1,355,145
総資産額 (千円)	255,507	390,904	467,533	803,068	1,478,835	1,786,729
1株当たり純資産額 (円)	541,917.63	952,393.04	51.34	76.70	159.46	216.76
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	220,754.89	410,475.42	19.59	25.36	49.97	57.31
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	48.45	55.60
自己資本比率 (%)	42.4	48.7	65.9	57.3	67.4	75.8
自己資本利益率 (%)	51.2	54.9	47.2	39.6	41.5	30.5
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	37.22	46.42
配当性向 (%)	-	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	-	156,871	-	-	-
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	-	21,674	-	-	-
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	-	12,284	-	-	-
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	-	-	192,749	-	-	-
従業員数 〔ほか、平均臨時雇 用人員〕 (名)	20 〔1〕	22 〔1〕	24 〔2〕	36 〔4〕	46 〔6〕	58 〔6〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 持分法を適用した場合の投資利益については、第9期、第10期及び第11期は関連会社を有していないため、第12期、第13期及び第14期は連結財務諸表を作成しているため、記載しておりません。

3 1株当たり配当額及び配当性向については、配当を実施していないため記載しておりません。

4 第9期及び第10期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため、記載しておりません。また、第11期及び第12期は、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載しておりません。

5 第9期から第12期までの株価収益率は当社株式が非上場であるため記載しておりません。

6 営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー並びに現金及び現金同等物の期末残高は、第9期及び第10期についてはキャッシュ・フロー計算書を作成していないため、第12期、第13期及び第14期については連結財務諸表を作成しているため記載しておりません。

- 7 第11期以降の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、新日本有限責任監査法人により監査を受けておりますが、第9期及び第10期の財務諸表については、監査を受けておりません。
- 8 第10期は、決算期変更により平成25年7月1日から平成26年2月28日の8ヶ月間となっております。
- 9 従業員数は就業人員であり、契約社員を含む臨時雇用者数は、年間の平均人員を〔 〕外数で記載しております。
- 10 平成27年2月26日付で普通株式1株につき10株の株式分割、平成28年9月16日付で普通株式1株につき1,000株の株式分割、平成29年9月1日付で普通株式につき3株の株式分割を行っておりますが、第11期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。
- 11 当社は、平成28年11月29日に東京証券取引所マザーズへ上場したため、第13期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、新規上場日から第13期末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

2【沿革】

当社創業者の瀬尾訓弘（現当社代表取締役社長）は、当社設立以前より婦人アパレルのデザイナーとして活動しておりましたが、アパレルはトレンドが非常に早く、生産コストを抑えるために中国等で生産する方式に疑問を感じておりました。じっくりモノづくりがしたいと考えていたところ、アパレルに比べてトレンドが緩やかで、季節にも左右されにくいと考えられる、バッグの製造・販売に興味を持ちました。

そこで、出身地である岡山の布と皮革産業で有名な姫路の皮革を使い、地場の職人の技術を生かしたバッグを世に送り出したいと考え、平成17年2月に「有限会社スタジオアタオ」を法人成りし、平成19年8月には有限会社を改組し、「株式会社スタジオアタオ」を設立しました。

年月	概要
平成17年2月	有限会社スタジオアタオ設立
平成17年7月	バッグブランド「ATAO」を、JFWインターナショナル・ファッション・フェア（JFW-IFF）の展示会において発表
平成18年3月	六本木ヒルズにて期間限定ショップオープン（平成18年3月1日～平成19年1月31日）
平成19年5月	初の路面店、ATAO神戸本店オープン（所在地：神戸市中央区）
平成19年8月	株式会社スタジオアタオへ法人改組
平成20年9月	ATAO新宿店オープン（所在地：東京都新宿区）
平成21年5月	株式会社デジサーチアンドアドバタイジングと「ATAO」ブランドのインターネット販売に関する協働を開始
平成21年9月	ATAO神戸本店移店オープン（所在地：神戸市中央区）
平成22年4月	広島物流倉庫を開設（平成26年2月拡張により移転）
平成23年3月	「IANNE」をパリのプルミエールクラスの展示会で発表
平成23年3月	IANNE神戸店オープン（所在地：神戸市中央区）
平成24年5月	IANNEヒルトン本店オープン（所在地：大阪市北区）
平成24年10月	ATAO Villa阪急梅田店オープン（所在地：大阪市北区、平成27年1月より取扱店に変更）
平成24年11月	ATAO大丸神戸店オープン（所在地：神戸市中央区）
平成25年2月	株式会社デジサーチアンドアドバタイジングと「IANNE」ブランドのインターネット販売に関する協働を開始
平成25年4月	IANNEパリギャラリーオープン（所在地：フランス パリ）
平成26年3月	ATAO Villa有楽町店オープン（所在地：東京都千代田区、平成28年11月よりATAO有楽町店）
平成27年5月	ロベルタ ディ カメリーノ ファーイースト株式会社の全株式を取得しグループ化
平成27年12月	ATAO横浜店オープン（所在地：横浜市西区）
平成27年12月	IANNE横浜店オープン（所在地：横浜市西区）
平成28年5月	ROBERTA DI CAMERINO本店移転オープン（所在地：東京都千代田区）
平成28年5月	公式オンラインショップ「ROBERTA DI CAMERINO」オープン
平成28年10月	「ILEMER」ブランドの展開を開始
平成28年11月	東京証券取引所マザーズに株式を上場
平成29年3月	IANNE銀座店オープン（所在地：東京都中央区）
平成29年11月	ATAO名古屋店オープン（所在地：名古屋市中区）

（注）平成30年4月にIANNE新宿店（東京都新宿区）をIANNE銀座店より移転オープンし、ATAO大丸梅田店（大阪市北区）をIANNEヒルトン本店より移転オープンしております。

3【事業の内容】

当社グループは、『ファッションにエンタテインメントを』を経営理念とし、オリジナルバッグ・財布等の提供を通じて『お客様に非日常のワクワク感を提供する』ことを目指しております。

当社グループは、当社（株式会社スタジオアタオ）及び連結子会社1社（ロベルタ ディ カメリーノ ファーイー スト株式会社）の2社で構成されており、オリジナルバッグ等の企画・販売、直営店舗の運営、インターネット店舗の運営、キャラクター商品の企画・販売を主な事業としております。

なお、当社グループはバッグ及び財布等の企画・販売を主とするファッションブランドビジネスを行う単一セグメントであるため、セグメント情報は記載せず、店舗販売、インターネット販売及びその他（ロベルタ事業等）について記載しております。

(1) 当社グループが展開するブランドについて

当社グループは、『ATAO（アタオ）』『IANNE（イアンヌ）』『Roberta di Camerino（ロベルタ ディ カメリーノ）』『ILEMER（イルメール）』の4つのブランドを展開しております。

ブランド名	ブランドの説明
『ATAO』 (アタオ)	当社グループの代表ブランドであり、神戸のファッションエリア旧居留地から始まった日本のブランドです。 基本的なデザインコンセプトは、正統派ラインのトレンチコートに似合うバッグです。トラッド(1)にとらわれずニュアンスを引き出してくれるようなバッグをイメージしています。チョコレートモチーフとした市松模様やウィンテージ感のあるスウェード素材など、使うほどに愛着を持ってもらえるように素材を選んでいるところも特徴です。 財布市場においてL字ファスナーに特徴のある「Limo（リモ）シリーズ」をはじめ、トラッド&エレガントなイメージを有し、かつ機能性も重視したバッグや革小物を展開しています。 主要な商品として、「elvy（エルヴィ）」「Candy（キャンディ）」「Dolly（ドリー）」「Mint（ミント）」「Labo（ラボ）」「Chivy（チヴィ）」「booboo（ブーブー）」「Dacquoise（ダックワーズ）」などのバッグのシリーズと「Limo（リモ）」などの財布のシリーズがあります。
『IANNE』 (イアンヌ)	「子供の頃に夢中になった絵本のワクワクするような世界と、上質なリユクス(2)の融合」をテーマに、毎年パリで開催され世界各地から出展者、訪問者が参加するアクセサリ・ファッション小物の展示会、プルミエールクラスでデビューしたブランドです。 パリジェンヌたちのライフスタイルに溶けこみ、「大人が楽しむ」ことができるようなバッグや革小物をテーマとしています。オペラ座近くのパスージュ(3)にギャラリーを構えています。 主要な商品として、「BRENDA（ブレンダ）」「VANESSA（ヴァネッサ）」「KATE（ケイト）」「OLIVIA（オリビア）」「MENZEL（メンゼル）」「IRINA（イリナ）」「ECRIN（エクリン）」などのバッグのシリーズと「Nataly（ナタリー）」「LAILY（ライリー）」「RINDA（リンダ）」などの財布のシリーズがあります。
『Roberta di Camerino』 (ロベルタ ディ カメリーノ)	ジュリアーナ・カメリーノが1945年にヴェネツィアで創業したバッグを中心としたファッションブランドであり、1956年には「ニーマンマーカス賞」を受賞しました。トロンプイユ(だまし絵)のテクニックを施して、ワンピースを着るだけでコーディネートができることを目指したユニークな発想のアイテムが特徴です。グレース・ケリーが持った「Bagonghi（バゴンギ）」など、ロングセラーとなっているバッグを発表しています。 主要な商品として、「UNO（ウノ）」「ADRIA（アドリア）」「PIETRO（ピエトロ）」「NOCE（ノーチェ）」「Bagonghi（バゴンギ）」などのバッグのシリーズと「ISAR（イザール）」「LISTON（リストン）」「PERLA（ペルラ）」などの財布のシリーズがあります。
『ILEMER』 (イルメール)	オリジナルのイラスト、テキスタイルに特化したプレミアムエコバッグを中心に展開するブランドです。当社グループの強みであるオリジナルキャラクターを中心に、1つの型でアート、パターン、風景等異なるカテゴリーで描かれたバリエーション豊富な商品を展開していることが特徴です。 主要な商品として、トートバッグの「WAKUWAKU（ワクワク）」「LUNLUN（ルンルン）」、ハンドバッグの「UKIUKI（ウキウキ）」、ポーチの「DOKIDOKI（ドキドキ）」やポシェット、PC/スマホケース、ぬいぐるみ等があります。

1 traditional style (伝統的なスタイル)

2 優雅、華美

3 ガラス製アーケードに覆われた商業空間

(2) 当社グループの主な販路

店舗販売

当社グループは、平成30年2月末現在、国内において神戸、新宿、有楽町、横浜、名古屋等の大都市圏の百貨店・商業施設等に入居している店舗10店（ATAO 6店、IANNE 4店）を展開するとともに、全国各地の百貨店等において随時イベントを開催し、当社商品を販売しております。また、海外においてパリにIANNEのギャラリー1ヶ所を展開しております。

平成30年4月にIANNE新宿店（東京都新宿区）をIANNE銀座店より移転オープンし、ATAO大丸梅田店（大阪府北区）をIANNEヒルトン本店より移転オープンしております。

インターネット販売

当社グループは、平成30年2月末現在、自社直営のインターネット店舗「ATAO OFFICIAL WEB SITE」、
「IANNE公式オンラインショップ」を株式会社デジサーチアンドアドバイザーと協働で運営しております。また、株式会社デジサーチアンドアドバイザーが運営するオンラインモール「erutouc（エルトゥーク）」内でも販売しております。

ロベルタ事業

当社グループは、Roberta di Camerinoのマスターライセンスである三菱商事株式会社より商標の使用、製造輸入販売に関する権利の許諾を受け、国内におけるRoberta di Camerinoの展開を行っており、平成30年2月末現在、国内において有楽町に路面店1店を展開するとともに当社グループによる運営サイトを通じたインターネット販売を行っております。また、国内におけるRoberta di Camerinoのサブライセンスとして、サブライセンスに商標権の使用許諾を行うことにより、ロイヤリティを受領しております。

(3) 当社グループのO2O（ ）の活用によるブランド戦略

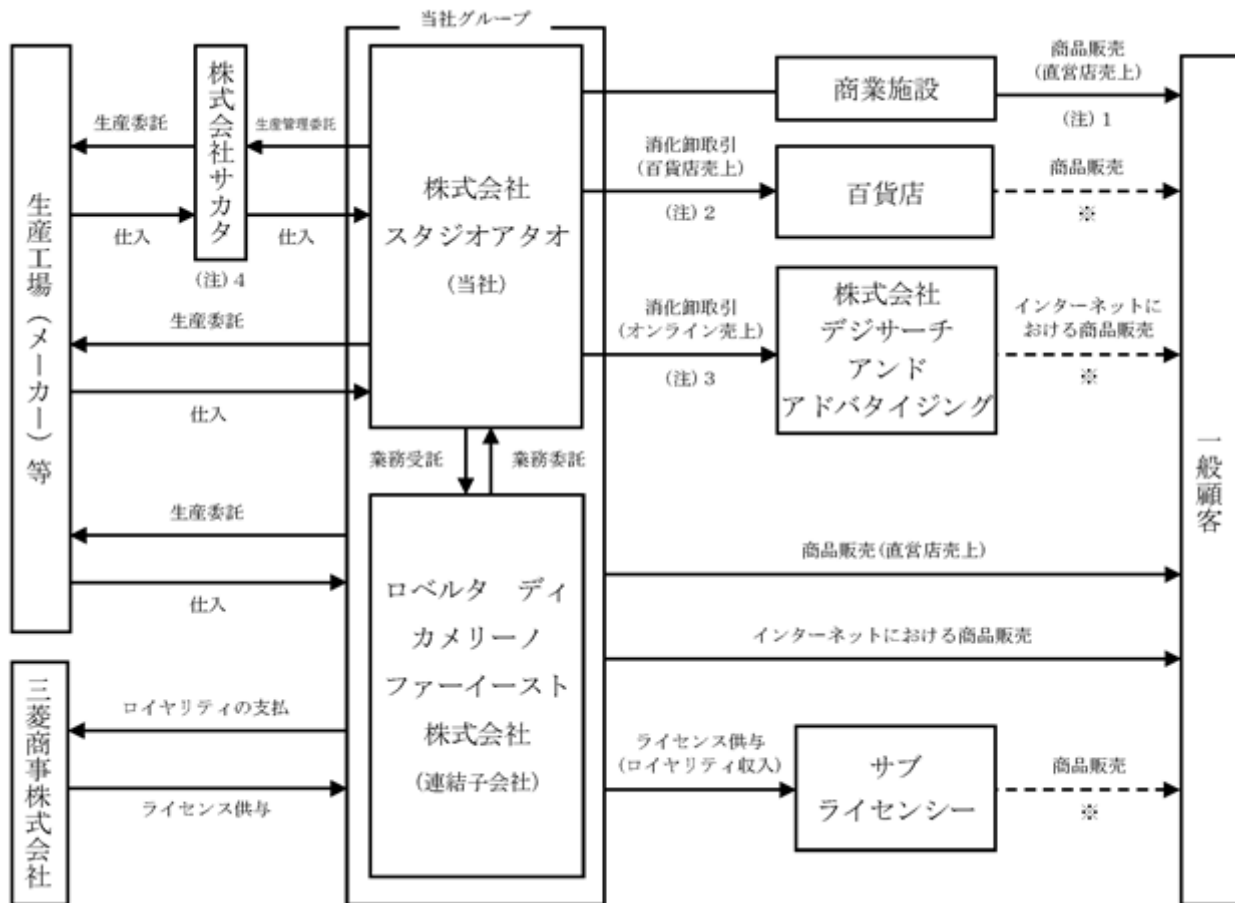
当社グループは『トレンドに左右されない商品企画と、定番商品を人気商品化するノウハウ』を強みとして、O2Oの施策を活用しながら、自社が提供するオリジナルバッグ等の企画・販売を通してブランドの世界観を構築し、流行に左右されない『ブランドのファン』を生み出すことで長期的・安定的に収益を上げる事業の展開に取り組んでおります。これは、テーマパークのように統一された世界観の中で不変の定番商品や造形があり、お客様が非日常感を味わえる環境を創りだすことにも似ていると考えております。売れている商品を後追いするのではなく、自由な発想で独創的な商品を提案し、それらを人気の定番商品に育てるノウハウを使って、ブームで終わらない強固なブランド創りを目指しております。

当社グループは、店舗は原則として直営店による運営を行っております。店舗の販売スタッフをブランドPRの最前線の広告塔として考えており、販売スタッフはすべて正社員となっております。そして、創業者やデザイナーによる継続的な社内研修等を通じてブランドの本質を熟知した販売スタッフによる質の高いサービスを提供することによりリピーターの獲得に努めております。

さらに、オフライン（店舗販売）とオンライン（インターネット販売）の連動及びそれを促進する販売スタッフによるブログ、SNS施策により、オンラインでブランドを知ったお客様がオフラインを訪れて買い物をしていただく一方で、オフラインでブランドを知ったお客様がオンラインを訪れて買い物をしていただくなどの双方向に回遊し、相乗効果を生むように取り組んでおります。

Online to Offlineの略であり、オンライン（インターネット販売）とオフライン（店舗販売）が融合し、相互に影響を及ぼすこと。

以上述べた事項を事業系統図に示すと次の通りであります。



当社グループによる直接的な売上ではなく、消化卸方式の契約等に基づく百貨店等から一般顧客への売上を示しております。

- (注) 1 商業施設運営会社との賃貸借契約に基づき、賃借した店舗において、消費者に対して直接販売を行っております。
- 2 消化卸方式での契約となっており、百貨店内の売場において、消費者に対して直接販売されたものについてのみ百貨店に対し売上が計上される取引となっております。
- 3 消化卸方式での契約となっており、インターネット上のオンラインショップ運営サイトにおいて、消費者に対して直接販売されたものについてのみ、株式会社デジサーチアンドアドバタイジングに対して売上が計上される取引となっております。
- 4 生産効率や生産管理の観点から、生産工場(メーカー)、資材業者、皮革業者等を一括で取りまとめる業務を株式会社サカタに委託しております。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権 の所有 又は被 所有割 合 (%)	関係内容
(連結子会社) ロベルタ ディ カメリー ノ ファーイースト株式 会社 (注) 1	東京都 中央区	20,000	イタリアファッションブラン ド「Roberta di Camerino」の 企画管理及び直営店での小売 販売	100.0	「Roberta di Camerino」 ブランドのライセンス管理 役員の兼任

- (注) 1 特定子会社であります。
2 有価証券届出書または有価証券報告書を提出している会社はありません。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年2月28日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
ファッションブランドビジネス事業	58 [6]

- (注) 1 当社グループは、バッグ及び財布等の企画・販売を主とするファッションブランドビジネスを行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。
2 従業員数は就業人員であり、契約社員を含む臨時雇用者数は、年間の平均人員を〔 〕外数で記載しております。
3 従業員数は前連結会計年度末より12名増加しておりますが、これは新規出店及び本社機能強化等に伴う採用によるものであります。

(2) 提出会社の状況

平成30年2月28日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
58 [6]	32.1	3.0	3,961

- (注) 1 当社は、バッグ及び財布等の企画・販売を主とするファッションブランドビジネスを行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。
2 従業員数は就業人員であり、契約社員を含む臨時雇用者数は、年間の平均人員を〔 〕外数で記載しております。
3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
4 従業員数は前事業年度末より12名増加しておりますが、これは新規出店及び本社機能強化等に伴う採用によるものであります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府や日本銀行の各種施策の推進により企業収益や雇用環境の改善が見られる等、緩やかな景気回復の動きが見られた一方、中国やアジア新興国経済の減速リスク、米国政権による政策動向等、世界経済の不確実性が増す中、景気の先行については不透明な状況が続いております。当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましても、個人消費が物価上昇への懸念等により低下が継続する厳しい状況となっております。

このような環境の中、当社グループは、「ファッションにエンタテインメントを」を経営理念とし、オリジナルバッグ・財布等の提供を通じて「お客様に非日常のワクワク感を提供すること」を目指し、引続きインターネット販売や既存店の強化、ポップアップショップの開催等を行っております。新規出店として、平成29年11月3日に名古屋エリア初となるA T A O名古屋店を出店いたしました。また、オンラインショップと店舗の一層の連携を図るべく、引続き販売促進費の増額、SNS活動の強化、自社ブランドのポータルブログを活用したO 2 O戦略の強化、ポイントアプリのリリース等を行った結果、インターネット販売が1,795,706千円（前連結会計年度比20.4%増）、店舗販売が1,470,783千円（同20.7%増）となり、好調に推移いたしました。

ロベルタ事業について、ブランディング戦略を見直し、MD（マーチャндаイジング）やプロモーション、運営体制等を変更することを決定いたしました。これに伴い、今後の同事業の成長に係る不確実性等を考慮して、売上原価（たな卸資産評価損）として9,804千円、店舗設備等に関する固定資産の減損損失として32,292千円を特別損失として計上いたしました。

また、I A N N E銀座店について、更なる売上拡大及び効率的な店舗運営の観点から、I A N N E新宿店に移転したことに伴い、店舗移転費用19,239千円を特別損失として計上いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は3,441,241千円（前連結会計年度比19.9%増）、営業利益は552,422千円（同19.6%増）、経常利益は553,139千円（同24.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は359,008千円（同18.3%増）となりました。

(2)キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、812,239千円となり、前連結会計年度末より113,385千円増加いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られたキャッシュ・フローは199,372千円（前連結会計年度比62,931千円の減少）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益502,089千円による資金の増加、売上債権の増加額111,872千円及び法人税等の支払額167,452千円等による資金の減少によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用したキャッシュ・フローは62,636千円（前連結会計年度比13,262千円の増加）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出41,489千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用したキャッシュ・フローは23,349千円（前連結会計年度は239,238千円の獲得）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出23,244千円によるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社グループは生産活動を行っておりませんので、該当事項はありません。

(2) 仕入実績

仕入実績については、次の通りであります。

品目	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)	
	仕入高(千円)	前年同期比(%)
オリジナルバッグ等	1,397,461	118.4
合計	1,397,461	118.4

- (注) 1 金額は、仕入価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注実績

当社グループは受注生産を行っておりませんので、該当事項はありません。

(4) 販売実績

当社グループの事業セグメントは、バッグ及び財布等の企画・販売を主とするファッションブランドビジネスを行う単一セグメントであるため、販売実績について販売の業態別に示すと次の通りであります。

業態	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)	
	販売高(千円)	前年同期比(%)
インターネット販売	1,795,706	120.4
店舗販売	1,470,783	120.7
その他	174,751	109.9
合計	3,441,241	119.9

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次の通りであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)		当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
(株)デジサーチアンドアドバタイ ジング	1,502,368	52.4	1,801,788	52.4

3【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 経営方針及び経営戦略

創業から、当社グループは、『ファッションにエンタテインメントを』を経営理念として、オリジナルバッグ・財布等の提供を通じて『お客様に非日常のワクワク感を提供すること』を目指しております。

今後も当社グループのブランドであるATAO、IANNE、Roberta di Camerino、ILEMERを中心とした『トレンドに左右されない商品企画』と『定番商品を人気商品化するノウハウ』をもとに、020戦略を活かした長期的なブランディングによって、それぞれのブランドの付加価値を高め、安定的に収益を上げる事業を展開してまいります。また、エンタテインメント事業を具現化するための、キャラクターとブランドを融合させたビジネスの実現に向け、中長期的に取り組んでまいります。

(2) 経営環境及び対処すべき課題

当社グループを取り巻く環境は、当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましても、個人消費が物価上昇への懸念等により低下が継続する厳しい状況となっております。こうした状況を踏まえて当社では、以下の課題について特に重要な課題としており、その実現に向けて、引き続き積極的に取り組んでまいります。

内部管理体制の強化

当社グループの円滑な拡大を支えていくために、業況推移を常時正確に把握し、適時・適切に経営判断へ反映させていくことが、従来以上に大切であると考えております。こうした観点から、内部管理体制の一層の充実、管理部門の体制強化を図ってまいります。

人材の確保・育成

当社グループにとって、店舗従業員の確保・育成は重要な経営課題であり、優秀な人材確保のため、今後は様々な採用チャネルを活用していく方針です。当期においては、設立以来初めての新卒採用を行いました。また、転勤のない正社員の採用や時短勤務を取り入れる等、雇用形態や働き方の多様化も図ってまいります。

生産体制の強化

当社グループでは、お客様のニーズにより早く、確かな品質で応えることができるような供給システムを構築するため、技術指導等による生産管理委託先及び生産工場の育成に取り組んでおります。

新規販売チャネルの展開

当社グループは、継続的な成長及び企業価値の拡大を図り、より多くの消費者ニーズに応えるため、海外進出、キャラクタービジネス、ライセンス事業等の新規販売チャネルの開拓を推進してまいります。そのため、システム投資、広告宣伝費等の追加費用が発生する可能性があります。消費者の購買行動の変化に対して適時・適切に対応するとともに、事業拡大に伴う新たなお客様層の獲得を通じて、経営の安定化に取り組んでまいります。

既存のお客様向けサービスの強化

当社グループは、新規のお客様の獲得に取り組むと同時に、既存のお客様に対するサービス体制の強化を図ってまいります。

模倣品対策

当社グループは、当社グループの商品と混同させてお客様に販売しようとする悪質な模倣品等については、お客様からの信頼を損ない、また、当社グループのブランド価値を毀損する可能性があることを認識しており、このような行為への対応をさらに強化してまいります。

4【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには、以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものでありますが、将来において発生する可能性があるすべてのリスクを網羅するものではありません。

(1) ブランド力の維持について

当社グループは、法令遵守違反などの不適切な行為が発覚した場合は、速やかに適切な対応を図って参りますが、当社グループに対する悪質な風評が、SNS等のインターネット上の書き込み等により爆発的に発生・流布した場合は、それが正確な事実に基づくものであるか否かにかかわらず、当社グループのブランドイメージが毀損され、当社グループの事業、財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(2) ファッショントレンドについて

当社グループが属するファッションブランド業界は、一般に流行の変化が激しく、商品のライフサイクルが短い傾向にあります。当社グループは、流行に左右されにくい商品の開発や複数のブランドの展開等により当該リスクの低減を図っておりますが、ファッショントレンドの変化等により、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 出店について

当社グループは、出店を検討している地域にて期間限定ショップを展開し、お客様の動向・趣味嗜好等を総合的に判断して出店しておりますが、競合他社による出店等により売上業績が見込みを下回った場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(4) 業績変動について

当社グループでは、一定の季節変動があること及びインターネット販売におけるプロモーション戦略や出荷時期等の影響により、業績が大きく変動する可能性があります。第13期連結会計年度（自平成28年3月1日至平成29年2月28日）及び第14期連結会計年度（自平成29年3月1日至平成30年2月28日）における各四半期連結会計期間及び通期の当社グループの業績は、以下の通りです。

（単位：千円、％）

	第13期								
	第1四半期 連結会計期間		第2四半期 連結会計期間		第3四半期 連結会計期間		第4四半期 連結会計期間		連結会計年度
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額
売上高	984,588	34.3	493,763	17.2	564,992	19.7	826,190	28.8	2,869,534
営業利益	240,833	52.2	88,668	19.2	47,714	10.3	84,589	18.3	461,806

	第14期								
	第1四半期 連結会計期間		第2四半期 連結会計期間		第3四半期 連結会計期間		第4四半期 連結会計期間		連結会計年度
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額
売上高	1,174,677	34.1	648,535	18.9	693,444	20.2	924,583	26.9	3,441,241
営業利益	258,204	46.7	138,761	25.1	79,786	14.4	75,670	13.7	552,422

（注）1 比率は通期の金額に対する各四半期連結会計期間の金額の割合であります。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

(5) 株式会社デジサーチアンドアドバタイジングとの関係について

資本的關係について

株式会社デジサーチアンドアドバタイジングは、当連結会計年度末現在において、同社の代表取締役及び同氏の資産管理会社が合わせて当社の発行済株式総数の19.67%を保有しており、同社は当社の関連当事者となっております。

当社と同社の間には、インターネット販売に関する営業取引は発生しておりますが、当社役員又は当社従業員と同社役員又は同社従業員との兼務関係、従業員の派遣出向及び受入出向ならびに営業外取引は発生しておりません。

また、当社グループの事業戦略、人事政策及び資本政策等について、何ら制約等を受けておりません。

なお、同社の概要は以下のとおりであります。

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有又は被所有割合 (%)	関係内容
(株)デジサーチアンドアド バタイジング	東京都 渋谷区	50,000	インターネットを応用した ビジネスの企画、開発、運 営・Webショッピングサ イトの制作・コンサルティング・インターネット ショップの運営・小売店舗 ブランドイメージ構築コン サルティング・上記分野の 調査、コンサルティング	被所有 - [19.68]	インターネットにおける当 社商品の主要販売先、イン ターネット販売に係る販売 促進及びカスタマーサポー ト業務等の委託先

(注) 「議決権の所有又は被所有割合」欄の [] 内は、緊密な者による被所有割合で外数であります。

取引関係について

当社は、株式会社デジサーチアンドアドバタイジングに対して、当社商品の直営サイトである「ATAO OFFICIAL WEB SITE」、「IANNE公式オンラインショップ」における当社商品の販売等を委託しております。

なお、インターネット販売による当社商品の売上比率は以下の通りとなっております。

	平成28年2月期	平成29年2月期	平成30年2月期
インターネット販売	51.2%	52.0%	52.2%
店舗販売その他	48.8%	48.0%	47.8%

また、同社との取引は関連当事者取引に該当しておりますが、当該関連当事者取引が経営の健全性を損なっていないか、その取引が合理的判断に照らし合わせて有効であるか、取引条件は他の外部取引と比較して適正であるか等に特に留意して、当社取締役会で決議を行っております。さらに、毎月の取締役会では前月の同社との取引状況を報告することで透明化を図っております。

平成29年2月期及び平成30年2月期における当社グループと株式会社デジサーチアンドアドバタイジングとの取引関係は以下の通りです。

取引の内容	取引金額(千円)		科目	期末残高(千円)	
	平成29年2月期	平成30年2月期		平成29年2月期	平成30年2月期
商品の販売 (注) 1	1,502,368	1,801,788	売掛金	78,834	152,982
販売促進費の支払 (注) 2	414,027	477,599	未払金	16,907	27,111
手数料の支払 (注) 3	170,096	212,408			

(注) 1 株式会社デジサーチアンドアドバタイジングに対し、一般顧客への販売金額に一定の割合を乗じた手数料を控除した金額で商品を販売しております。

2 株式会社デジサーチアンドアドバタイジングに対し、インターネット広告費用及びカスタマーサポート費用を支払っております。

3 株式会社デジサーチアンドアドバタイジングに対し、商品の配送費用や代金の回収に係る決済手数料等を支払っております。

4 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

5 独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件で行っております。

当社グループと株式会社デジサーチアンドアドバタイジングは良好な関係を築いており、現時点において当該会社との取引関係等に支障は生じていないものの、同社の経営方針の変更等により、当社グループとの関係に変化が生じた場合あるいは同社に予期せぬ事態が発覚し、当社商品のインターネット販売に影響を及ぼした場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

また、株式会社デジサーチアンドアドバタイジングとの取引を解消する場合、契約上インターネットサイトに係る知的財産権等及びインターネット販売に係る顧客情報が株式会社デジサーチアンドアドバタイジングに帰属することとされております。当社グループは、自社によるインターネット販売に係るノウハウの蓄積、代替取引先との関係強化、継続的な店舗販売の強化等により、当該リスクの低減を図っておりますが、株式会社デジサーチアンドアドバタイジングとの取引解消時に他社への切替等が適切に行えない場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 株式会社サカタとの関係について

当社グループは、生産効率や生産管理の観点等から、生産工場（メーカー）、資材業者、皮革業者等を一括で取りまとめる業務を株式会社サカタに委託しており、同社を通じた商品の仕入比率は、平成30年2月期において全体の96.5%となっております。

当社グループは、同社に代替し得る取引先の確保や各生産工場等との直接契約への切替が可能な関係性の構築等によりリスクの低減を図っておりますが、今後何らかの理由により、安定的な商品の仕入が行えない場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 為替変動について

当社グループは原則としてメーカーと直接仕入取引を行わず、個別のメーカーを取りまとめる生産管理業務を委託している株式会社サカタに対して仕入価格を提示して商品を仕入れており、株式会社サカタは当社より提示された価格で納品できるように各メーカーと仕入価格の調整を行っております。このため、これまでは当社の商品の仕入価格は殆ど変動せず、安定的な仕入価格で商品の供給を受けておりました。しかしながら、急激な円安の影響により、メーカーからの値上げ要求を受け入れざるを得なくなると、商品の仕入価格が上昇する可能性があり、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(8) 自然災害、事故等のリスクについて

当社グループは生産、販売拠点ともに日本に集約しているため、国内において大地震や津波、台風、洪水等の自然災害あるいは予期せぬ事故等が発生した場合、店舗施設等に物理的な障害が生じる可能性があります。また、自然災害、事故等によって当社グループの販売活動や物流、仕入活動において支障が発生した場合のみならず、人的被害等が生じた場合、通常の事業活動が困難となり、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(9) 特定人物への依存について

当社の代表取締役社長である瀬尾訓弘は、創業者であると同時に創業以来当社の事業推進において重要な役割を担ってまいりました。瀬尾は、商品の企画等、ブランド全体のプロデュースにおいて豊富な経験と知識を有しております。また当社設立以降は、経営方針や事業戦略の決定及びその遂行において重要な役割を果たしております。当社グループでは、人材の育成や権限移譲を進めるなど組織体制の強化を図りながら、瀬尾に過度に依存しない経営体制の整備を進めております。しかしながら、当社は小規模の組織であるため、何らかの理由により瀬尾が当社グループの経営執行を継続することが困難になった場合、或いは特定の役職員が当社の業務を継続することが困難になった場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(10) 人材の確保・育成について

当社は、取締役7名（うち監査等委員である取締役3名）及び従業員数が58名（平成30年2月末現在）と小規模な組織であり、業務執行体制もこれに応じたものとなっております。当社グループは、今後の事業拡大に応じて従業員の育成、人材の採用を強化するとともに業務執行体制の充実を図っていく方針ですが、これらの施策が適時適切に進行しなかった場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(11) 内部管理体制の充実について

当社グループは、企業価値の継続的な向上を図るには、コーポレート・ガバナンスが有効に機能することが不可欠であると認識しております。業務の適正性及び財務報告の信頼性の確保のための内部統制システムの適切な運用、さらに健全な倫理観に基づく法令遵守を徹底してまいりますが、事業の急速な拡大により、十分な内部管理体制の構築が追いつかない場合には、適切な業務運営が困難となり、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 知的財産権について

当社グループは、商標権等の知的財産権の保全に努めていますが、第三者による権利の侵害により、企業・ブランドイメージの低下、商品開発の阻害等を招いた場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループでは第三者の知的財産権を侵害しないよう監視・管理を行っておりますが、万一、第三者から損害賠償及び使用差し止め請求等がなされ金銭の支払い等が発生した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(13) 個人情報の管理について

当社グループの事業では、利用者本人を識別することができる個人情報を保有しており、「個人情報の保護に関する法律」が定める個人情報取扱事業者としての義務を課されております。当社グループは、個人情報の外部漏洩・改ざん等を防止するため、個人情報の管理を事業運営上の重要事項と捉え、個人情報管理規程を制定しております。併せて、全社員を対象とした社内教育を通じて関連ルールの存在を周知徹底し、個人情報保護に関する意識の向上を図ることで、同法及び関連法令等の法的規制の遵守に努めております。また技術的対応として、外部からの侵入を防ぐことができる社内回線（VPN）を使用しており、ウィルス対策、情報漏洩防止に繋げております。また、各店舗のすべてのパソコンに設定されているログインパスワードは厳重に管理され、スタッフのみがアクセスできる体制になっており、社内体制の管理、整備に取り組んでおります。

しかしながら、個人情報が当社グループ関係者や業務提携・委託先などの故意または過失により外部に流出したり、悪用される事態が発生した場合には、当社グループが損害賠償を含む法的責任を追及される可能性があるほか、当社グループの信頼性やブランドが毀損し、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(14) システムに関するリスクについて

当社グループは、サービス及びそれを支えるシステム、並びにインターネット接続環境の安定した稼働が、事業運営の前提であると認識しております。従って、常時データバックアップやセキュリティ強化を施し、安定的なシステム運用体制の構築に努めております。しかしながら、予期せぬ自然災害や事故、ユーザー及びトラフィックの急増やソフトウェアの不具合、ネットワーク経由の不正アクセスやコンピュータウィルスの感染など様々な問題が発生した場合にはサービスの安定的な提供が困難となり、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(15) 差入保証金について

当社グループでは、路面店及び商業施設のインショップ店舗出店に際し、賃貸借契約締結時に保証金を差し入れております。差入保証金の残高は平成30年2月末現在、47,505千円であります。当該差入保証金は、期間満了等による賃貸借契約解約時に契約に従い返還されることとなっておりますが、契約に定められた期間満了日前に中途解約した場合は、契約内容に従って違約金の支払いが必要となる場合があります。また、仮にオーナーまたは商業施設が倒産等の事態に陥った場合には、差入保証金の回収ができない可能性もあります。

(16) 配当政策について

当社グループは、現在成長過程にあり、経営基盤の長期安定に向けた財務体質の強化及び事業の継続的な拡大発展を目指しております。そのため、内部留保の充実が重要であると考え、会社設立以来配当は実施しておりません。

当社グループは、株主利益の最大化を重要な経営目標の一つとして認識しており、今後の株主への利益配当につきましては、業績の推移・財務状況、今後の事業・投資計画等を総合的に勘案し、内部留保とのバランスを図りながら検討していく方針であります。しかしながら、今後の配当実施の可能性及び実施時期については未定であります。

5【経営上の重要な契約等】

(1) 販売契約

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約名称	契約締結日	契約期間	契約内容
株式会社スタジオアタオ(当社)	株式会社デジサーチアンドアドバタイジング	東京都渋谷区	商品販売基本契約書	平成28年8月1日	平成28年8月1日より3年間以後、3年毎の自動更新	当社商品(ATAO)のインターネット販売に関する条件等を定めた契約 取引を解消する場合、インターネットサイトに関する知的財産権等及びインターネット販売に係る顧客情報が株式会社デジサーチアンドアドバタイジングに帰属
株式会社スタジオアタオ(当社)	株式会社デジサーチアンドアドバタイジング	東京都渋谷区	商品販売基本契約書	平成28年8月1日	平成28年8月1日より3年間以後、3年毎の自動更新	当社商品(IANNE)のインターネット販売に関する条件等を定めた契約 取引を解消する場合、インターネットサイトに関する知的財産権等及びインターネット販売に係る顧客情報が株式会社デジサーチアンドアドバタイジングに帰属

(2) 仕入契約

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約名称	契約締結日	契約期間	契約内容
株式会社スタジオアタオ(当社)	株式会社サカタ	大阪府大阪市阿倍野区	取引基本契約書	平成27年9月1日	平成27年9月1日より1年間以後、1年毎の自動更新	生産管理委託先である株式会社サカタとの商品売買に係る取引基本契約
株式会社スタジオアタオ(当社)	株式会社サカタ及び株式会社シー・オー・エム	大阪府大阪市阿倍野区 大阪府牧方市	革の販売取引に関する契約書	平成30年1月1日	平成30年1月1日より5年間	当社商品に使用する革の独占購入(最低購入数量に関する規定あり)に関する3者間の取引基本契約

(3) ライセンス契約

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約名称	契約締結日	契約期間	契約内容
ロベルタ ディ カメ リーノ ファーイー スト株式会 社 (連結子会 社)	三菱商事株 式会社	東京都 千代田区	マスターラ イセンス契 約	平成27年 7月1日	平成27年7月1日より平成 30年3月31日 平成29年1月31日付で契約 期間を平成32年9月30日ま で延長	ロベルタ ディ カメ リーノ ファーイー スト株式会社が、三菱商 事株式会社より 「Roberta di Camerino」 ブランドに係る商標の 使用許諾等を受けるこ とに関する権利義務関 係を定めた契約

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積もり

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準により作成されております。この連結財務諸表の作成に当たりまして経営者による会計方針の採用、資産・負債及び収益・費用の計上については会計基準及び実務指針等により見積もりを行っております。この見積もりについては、継続して評価し、必要に応じて見直しを行っておりますが、見積もりには不確実性が伴うため、実際の結果はこれらと異なることがあります。

(2) 財政状態の分析

資産

当連結会計年度末の資産については、総資産1,819,693千円であり、前連結会計年度末と比較して322,105千円増加しております。主な増加要因は、現金及び預金が113,385千円、売掛金が111,872千円増加したことであり、

負債

負債合計は457,672千円であり、前連結会計年度末と比較して36,798千円減少しております。主な減少要因は、買掛金が33,438千円、長期借入金が21,667千円減少したことであり、

純資産

純資産は1,362,020千円であり、前連結会計年度末と比較して358,903千円増加しております。主な増加要因は、利益剰余金が359,008千円増加したことであり、

(3) 経営成績の分析

売上高及び売上総利益

〇2〇施策が奏功しインターネット販売及び店舗販売がともに好調に推移し、当連結会計年度の売上高は3,441,241千円（前連結会計年度比19.9%増）となり、売上原価1,310,934千円（同25.0%増）を計上した結果、売上総利益は2,130,307千円（同16.9%増）となりました。

販売費及び一般管理費及び営業利益

販売促進費516,863千円（前連結会計年度比14.1%増）、支払手数料264,274千円（同29.9%増）等を計上した結果、当連結会計年度の販売費及び一般管理費は1,577,884千円（同16.0%増）となり、営業利益は552,422千円（同19.6%増）となりました。

営業外損益及び経常利益

受取家賃1,216千円（前連結会計年度比9.5%減）等により営業外収益1,233千円（同19.3%減）を計上し、営業外費用516千円（前連結会計年度は上場関連費用17,242千円含む18,861千円）を計上した結果、当連結会計年度の経常利益は553,139千円（前連結会計年度比24.4%増）となりました。

特別損益及び親会社株主に帰属する当期純利益

特別損失として店舗移転費用19,239千円及び減損損失32,292千円を計上（前期は特別損失なし）し、税金等調整前当期純利益は502,089千円（前連結会計年度比12.9%増）となり、法人税等143,080千円（同1.4%増）を計上した結果、当連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純利益は359,008千円（同18.3%増）となりました。

(4) キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、812,239千円となり、前連結会計年度末より113,385千円増加いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られたキャッシュ・フローは199,372千円(前連結会計年度比62,931千円の減少)となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益502,089千円による資金の増加、売上債権の増加額111,872千円及び法人税等の支払額167,452千円等による資金の減少によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用したキャッシュ・フローは62,636千円(前連結会計年度比13,262千円の増加)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出41,489千円によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用したキャッシュ・フローは23,349千円(前連結会計年度は239,238千円の獲得)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出23,244千円によるものであります。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第2 事業の状況 4 事業等のリスク」に記載の通りであります。ブランド力の維持、ファッショントレンド、出店、特定取引先との関係等、様々なリスク要因が当社の経営成績に重要な影響を与える可能性があることを認識しております。そのため、市場動向等に留意し、内部管理体制の強化、取引先との関係維持・強化、市場のニーズに合った商品の開発等により、経営成績に重要な影響を与えるリスク要因を分散・低減し、適切に対応を行ってまいります。

(6) 経営戦略の現状と見通し

当社グループの経営の状況につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」に記載の通り、当期につきましては販売促進費の増額やポータルブログ、SNS活動の強化等を行った結果、インターネット販売及び店舗販売がともに好調に推移しました。

次期につきましては、好調な「ATAO」の店舗及びオンラインショップを継続して強化していくことに加え、「IANNE」「Roberta di Camerino」「ILEMER」の各ブランドの育成及び顧客開拓、オンラインショップと店舗とのさらなる連携強化に積極的に取り組んでまいります。当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましては、今後も厳しい経営環境が続く見通しですが、好調なオンラインショップと店舗を連携させることにより当社グループ全体の売上及びブランド価値の向上を図ってまいります。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

経営者の問題認識と今後の方針につきましては、「第2 事業の状況 3 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載の通り、人材の確保・育成、生産体制の強化、新規販売チャネルの展開等が必要であると認識しております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度中の設備投資の総額は65,631千円であります。

その主なものは、新規出店に関する内装設備等であります。

なお、当連結会計年度においてロベルタ事業について、ブランディング戦略を見直し、MD（マーチャンダイジング）やプロモーション、運営体制等を変更することを決定いたしました。これに伴い、今後の同事業の成長に係る不確実性等を考慮して、店舗設備等に関する固定資産の減損損失として32,292千円を特別損失として計上しました。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次の通りであります。

(1) 提出会社

平成30年2月28日現在

事業所・店舗名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
		建物	工具、器具 及び備品	差入保証金	その他	合計	
本社 (兵庫県神戸市中央区)	事務所	9,346	1,801	5,445	11,955	28,548	3
ATAO神戸本店・IANNE神戸店 (兵庫県神戸市中央区)	店舗設備	23,122	4,194	4,429	-	31,746	9
IANNEヒルトン本店 (大阪府大阪市北区)	店舗設備	4,431	504	5,551	-	10,487	5
ATAO横浜店・IANNE横浜店 (神奈川県横浜市西区)	店舗設備	20,045	8,157	6,108	-	34,311	8
ROBERTA DI CAMERINO本店 (東京都千代田区)	店舗設備	-	-	17,030	-	17,030	2
IANNE銀座店 (東京都中央区)	店舗設備	-	-	3,635	-	6,232	3
ATAO名古屋店 (名古屋市中区)	店舗設備	12,088	1,173	-	252	13,515	5

(注) 1 金額には消費税等は含まれておりません。

2 当社は、バッグ及び財布等の企画・販売を主とするファッションブランドビジネスを行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

3 上記事業所及び店舗はすべて賃借物件であり、年間賃借料(共益費を含む)は、129,778千円であります。

(2) 国内子会社

重要な設備等はありません。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループは、バッグ及び財布等の企画・販売を主とするファッションブランドビジネスを行う単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(1) 重要な設備の新設等

平成30年2月28日現在

会社名	地区・事業所 (店舗名)	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定年月	完成後の増 加能力
			総額 (千円)	既支払額 (千円)				
提出会社	ROBERTA DI CAMERINO本店リ ニューアル	店舗設備	10,000		公募増資 資金	平成30年8月	平成30年9月	(注)2,3
提出会社	神戸店(ATAO・ IANNE・ILEMER)拡 張りリニューアル	店舗設備	100,000		公募増資 資金	平成31年2月	平成31年3月	(注)2,3
提出会社	ATAO新店	店舗設備	30,000		公募増資 資金	平成32年2月	平成32年3月	(注)2,3

(注)1 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2 完成後の増加能力については、計数的把握が困難であるため、記載を省略しております。

3 賃借物件であり、店舗賃借に係る差入保証金が含まれております。

(2) 重要な設備の除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,000,000
計	24,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成30年2月28日)	提出日現在発行数(株) (平成30年5月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,252,000	6,252,000	東京証券取引所 (マザーズ)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。また、1単元の株式数は100株であります。
計	6,252,000	6,252,000	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次の通りであります。

第1回新株予約権 (平成27年2月11日臨時株主総会決議)		
区分	事業年度末現在 (平成30年2月28日)	提出日の前月末現在 (平成30年4月30日)
新株予約権の数(個)	4(注)1	4(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	12,000(注)1,5	12,000(注)1,5
新株予約権の行使時の払込金額(円)	67(注)2,5	同左
新株予約権の行使期間	平成29年2月27日～ 平成37年2月11日(注)3	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 67(注)5 資本組入額 34(注)5	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡する場合には、取締役会の承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		

(注)1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。

ただし、新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により株式数を調整、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

2 新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使金額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権の割当日後に時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使金額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新株発行(処分)株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行(処分)株式数}}$$

3 行使期間の最終日が会社の休業日にあたる場合には、その前営業日を最終日とする。

4 行使条件

(1) 権利者が下記いずれの身分とも喪失した場合、本新株予約権の行使は認められない。

会社または子会社の取締役または監査役

会社または子会社の使用人

顧問、アドバイザー、コンサルタントその他名目の如何を問わず会社または子会社との間で委任、請負等の継続的な契約関係にある者

(2) 権利者は、会社の株式のいずれかの金融商品取引所への上場がなされるまでの期間は、本新株予約権を行使することはできないものとする。

(3) 本新株予約権の行使は1新株予約権単位で行うものとし、各新株予約権の一部の行使は認められないものとする。

(4) その他の行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する「第1回新株予約権割当契約書」の定めるところによる。

5 平成29年7月12日開催の取締役会決議により、平成29年9月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

第2回新株予約権 (平成28年1月19日臨時株主総会決議)		
区分	事業年度末現在 (平成30年2月28日)	提出日の前月末現在 (平成30年4月30日)
新株予約権の数(個)	62(注)1	62(注)1
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	186,000(注)1,5	186,000(注)1,5
新株予約権の行使時の払込金額(円)	67(注)2,5	同左
新株予約権の行使期間	平成30年2月4日～ 平成38年1月19日(注)3	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 67(注)5 資本組入額 34(注)5	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡する場合には、取締役会の承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		

(注)1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。

ただし、新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により株式数を調整、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

2 新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使金額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権の割当日後に時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使金額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新株発行(処分)株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行(処分)株式数}}$$

3 行使期間の最終日が会社の休業日にあたる場合には、その前営業日を最終日とする。

4 行使条件

(1) 権利者が下記いずれの身分とも喪失した場合、本新株予約権の行使は認められない。

会社または子会社の取締役または監査役

会社または子会社の使用人

顧問、アドバイザー、コンサルタントその他名目の如何を問わず会社または子会社との間で委任、請負等の継続的な契約関係にある者

(2) 権利者は、会社の株式のいずれかの金融商品取引所への上場がなされるまでの期間は、本新株予約権を行使することはできないものとする。

(3) 本新株予約権の行使は1新株予約権単位で行うものとし、各新株予約権の一部の行使は認められないものとする。

(4) その他の行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する「第2回新株予約権割当契約書」の定めるところによる。

5 平成29年7月12日開催の取締役会決議により、平成29年9月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】
該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】
該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成27年2月26日 (注)1	1,800	2,000		10,000		
平成28年9月16日 (注)2	1,998,000	2,000,000		10,000		
平成28年11月28日 (注)3	51,000	2,051,000	71,083	81,083	71,083	71,083
平成28年12月28日 (注)4	33,000	2,084,000	45,995	127,079	45,995	117,079
平成29年9月1日 (注)5	4,168,000	6,252,000		127,079		117,079

- (注) 1 平成27年2月11日開催の臨時株主総会決議に基づき、平成27年2月26日付で普通株式1株につき10株の株式分割を実施したことによるものであります。
- 2 平成28年8月24日開催の取締役会決議により、平成28年9月16日付で普通株式1株につき1,000株の株式分割を実施したことによるものであります。
- 3 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)
発行価格 3,030円
引受価額 2,787.60円
資本組入額 1,393.80円
払込金総額 142,167千円
- 4 有償第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)
発行価格 3,030円
資本組入額 1,393.80円
割当先 S M B C 日興証券株式会社
- 5 平成29年7月12日開催の取締役会決議により、平成29年9月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を実施したことによるものであります。

(6) 【所有者別状況】

平成30年2月28日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況 (株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		7	16	14	28		861	926	
所有株式数 (単元)		11,207	313	18,352	6,419		26,218	62,509	1,100
所有株式数の割合(%)		17.93	0.50	29.36	10.27		41.94	100	

(注) 自己株式47株は、「単元未満株式の状況」に含まれております。

(7)【大株主の状況】

平成30年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
瀬尾 訓弘	兵庫県神戸市中央区	1,640,700	26.24
株式会社セブンオー	東京都中央区銀座6丁目13番16号	1,200,000	19.19
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	626,400	10.01
黒越 誠治	兵庫県西宮市	615,000	9.83
株式会社九六	東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号 恵比寿 ガーデンプレイスタワー27F	615,000	9.83
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 380578 (常任代理人 株式会社みずほ 銀行決済営業部 部長 佐古 智明)	EUROPEAN BANK AND BUSINESS CENTER 6, ROUTE DE TREVES, L-2633 SENNINGERBERG, LUXEMBOURG (東京都港区港南2丁目15番1 号 品川インターシティA棟)	248,900	3.98
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	244,500	3.91
野村信託銀行株式会社(投信 口)	東京都千代田区大手町2丁目2番2号	170,100	2.72
AEGON CUSTORY BV REMM EQUITY SMALL CAP FUND (常任代理人 シティバンク、 エヌ・エイ東京支店 証券業務 部長 石川 潤)	AEGON PLEIN 50 THE HAGUE NL 2591 TV (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	114,900	1.83
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) (常任代理人 株式会社三菱東 京UFJ銀行 頭取 三毛 兼 承)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7番 1号 決済事業部)	49,535	0.79
計	-	5,525,035	88.37

(注)1 上記日本マスタートラスト信託銀行株式会社及び日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社並びに野村信託銀行株式会社の所有株式のうち、信託業務に係る株式数は、1,041,000株であります。

2 平成29年7月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、フィデリティ投信株式会社が平成29年7月14日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

大量保有者	フィデリティ投信株式会社
住所	東京都港区六本木7丁目7番7号
保有株券等の数	株式 378,600株
株券等保有割合	6.06%

3 平成29年10月20日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社が平成29年10月13日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

大量保有者	シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社
住所	東京都千代田区丸の内1丁目8番3号
保有株券等の数	株式 346,700株
株券等保有割合	5.55%

(8) 【議決権の状況】
【発行済株式】

平成30年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,250,900	62,509	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 1,100		
発行済株式総数	6,252,000		
総株主の議決権		62,509	

【自己株式等】

平成30年2月28日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
計					

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、新株予約権によるストックオプション制度を採用しております。当該制度は、会社法に基づき新株予約権を発行する方法によるものであります。

当該制度の内容は以下の通りであります。

第 1 回新株予約権（平成27年 2 月11日臨時株主総会決議）

決議年月日	平成27年 2 月11日
付与対象者の区分及び人数（名）	当社取締役 1
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

第 2 回新株予約権（平成28年 1 月19日臨時株主総会決議）

決議年月日	平成28年 1 月19日
付与対象者の区分及び人数（名）	当社取締役 1
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	47	105,609
当期間における取得自己株式	-	-

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	47	-	47	-

3【配当政策】

当社グループは、現在成長過程にあり、経営基盤の長期安定に向けた財務体質の強化及び事業の継続的な拡大発展を目指しております。そのため、内部留保の充実が重要であると考え、会社設立以来配当は実施しておらず、当連結会計年度においても配当は行っておりません。

しかしながら、株主利益の最大化を重要な経営目標の一つとして認識しており、今後の株主への利益配当につきましては、業績の推移・財務状況、今後の事業・投資計画等を総合的に勘案し、内部留保とのバランスを図りながら検討してまいります。内部留保資金につきましては、今後の事業戦略に応じて、新規出店時の設備投資や採用に伴う人件費等に充当する方針であります。

なお、剰余金の配当を行う場合は、年1回期末での配当を考えており、配当の決定機関は株主総会であります。また、当社は8月31日を基準日として、中間配当を取締役会の決議によって行うことができる旨を定款で定めております。

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期	第14期
決算年月	平成25年6月	平成26年2月	平成27年2月	平成28年2月	平成29年2月	平成30年2月
最高(円)	-	-	-	-	6,470	8,740 3,270
最低(円)	-	-	-	-	3,405	3,870 1,773

- (注) 1 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおけるものであります。
 なお、平成28年11月29日付をもって同取引所に株式を上場いたしましたので、それ以前の株価については該当事項はありません。
- 2 第10期は、決算期変更により平成25年7月1日から平成26年2月28日の8ヶ月間となっております。
- 3 印は、株式分割(平成29年9月1日、1株 3株)による権利落後の最高・最低株価を示しております。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年9月	10月	11月	12月	平成30年1月	2月
最高(円)	2,149	2,376	2,437	3,130	3,270	3,130
最低(円)	1,773	1,820	2,011	2,330	2,755	2,304

- (注) 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおけるものであります。

5【役員の状況】

男性5名 女性2名（役員のうち女性の比率28.5%）

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長		瀬尾 訓弘	昭和51年4月3日生	平成12年4月 株式会社ベルシステム24入社 平成14年12月 学校法人河合塾入社 平成17年2月 当社設立 代表取締役社長就任（現任） 平成27年5月 ロベルタ ディ カメリーノ ファーイースト株式会社代表取締役社長就任（現任）	(注)3	1,640,700
取締役	事業部ゼネラルマネージャー	籠谷 雅	昭和52年7月4日生	平成14年4月 株式会社クリケット入社 平成19年3月 有限会社イーコンセプトラブ入社 平成21年5月 当社入社 平成23年4月 事業部マネージャー 平成25年3月 事業部ゼネラルマネージャー 平成27年6月 取締役事業部ゼネラルマネージャー就任（現任）	(注)3	3,000
取締役	経営戦略室長	長南 伸明	昭和48年9月9日生	平成8年4月 太田昭と監査法人（現 新日本有限責任監査法人）入所 平成20年7月 新日本有限責任監査法人パートナー就任 平成27年8月 株式会社bitFlyer社外取締役就任（現任） 平成27年9月 当社取締役就任 平成27年9月 株式会社レジェンド・パートナーズ社外取締役就任（現任） 平成28年3月 当社取締役経営戦略室長（現任） 平成28年6月 株式会社ネットジャパン社外監査役就任（現任） 平成29年7月 株式会社gumi社外取締役就任（現任） 平成29年8月 U U U M株式会社社外取締役就任（現任）	(注)3	2,700
取締役	事業部商品管理担当	中崎 優子 (旧姓：柏木)	昭和59年8月7日生	平成19年4月 株式会社サンワ・アイ入社 平成21年9月 当社入社 平成27年6月 取締役管理部ゼネラルマネージャー就任 平成27年11月 取締役事業部商品管理担当（現任）	(注)3、5	
取締役 (監査等委員)		松本 浩介	昭和42年6月2日生	昭和62年1月 株式会社リョーマ入社 平成10年6月 時刻表情報サービス株式会社取締役就任 平成11年6月 時刻表情報サービス株式会社代表取締役就任 平成16年7月 株式会社ザッパラス取締役就任 平成23年6月 株式会社enish取締役就任 平成28年3月 ピクスタ株式会社社外取締役就任（現任） 平成28年3月 KLab株式会社社外取締役就任（現任） 平成28年5月 当社社外取締役就任 平成29年5月 当社社外取締役（監査等委員）就任（現任）	(注)4	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 (監査等委員)		須田 仁之	昭和48年7月21日生	平成8年4月 イマジニア株式会社入社 平成9年10月 ジェイ・スカイ・ビー株式会社(現 スカパーJSAT株式会社)入社 平成11年7月 株式会社コミュニケーションオンライン取締役就任 平成11年8月 株式会社デジタルクラブ(現 ブロードメディア株式会社)入社 平成14年8月 株式会社コミュニケーションオンライン取締役就任 平成14年10月 株式会社アエリア取締役就任 平成14年12月 有限会社スタックス設立取締役就任(現任) 平成25年2月 弁護士ドットコム株式会社社外監査役就任(現任) 平成28年5月 当社社外監査役就任 平成29年5月 当社社外取締役(監査等委員)就任(現任)	(注)4	
取締役 (監査等委員)		吉羽 真一郎	昭和48年11月4日生	平成21年1月 森・濱田松本法律事務所パートナー就任 平成21年4月 青山学院大学法科大学院客員教授就任 平成23年10月 株式会社enish社外監査役就任(現任) 平成27年1月 潮見坂総合法律事務所パートナー就任(現任) 平成27年11月 ウォンテッドリー株式会社社外取締役就任(現任) 平成29年5月 当社社外取締役(監査等委員)就任(現任)	(注)4	
計						1,646,400

(注)1 取締役松本浩介、須田仁之、吉羽真一郎は社外取締役であります。

2 当社の監査等委員の体制は次のとおりであります。

委員長 松本浩介、委員 須田仁之、委員 吉羽真一郎

3 平成30年5月28日開催の第14期定時株主総会終結の時から、平成31年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

4 平成29年5月29日開催の第13期定時株主総会終結の時から、平成31年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

5 取締役中崎優子は、婚姻により戸籍の氏を変更いたしました。

6 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠の監査等委員である取締役1名を選任しております。補欠の監査等委員である取締役の略歴は次のとおりであります。

氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況)	所有する当社の 株式数
森下 俊光 (昭和48年10月9日生)	平成10年10月 朝日監査法人入所 平成14年4月 公認会計士登録 平成15年3月 優成監査法人入所 平成15年11月 新日本有限責任監査法人入所 平成23年11月 東京証券取引所自主規制法人出向 平成25年6月 新日本有限責任監査法人帰任 平成28年6月 新日本有限責任監査法人退所 平成28年7月 株式会社ZAIZEN CFO 平成28年7月 当社社外取締役 平成28年9月 株式会社ZAIZEN取締役(現任) (重要な兼職の状況) 株式会社ZAIZEN取締役	-株

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、株主重視を経営の基本理念とし、株主の皆様から経営の委託を受けた経営陣の強い使命感、高い企業倫理観に基づくコンプライアンス経営を実現するため、経営の効率性、透明性を向上させ、株主の視点に立って企業価値を最大化することをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針・目的としております。

企業統治の体制

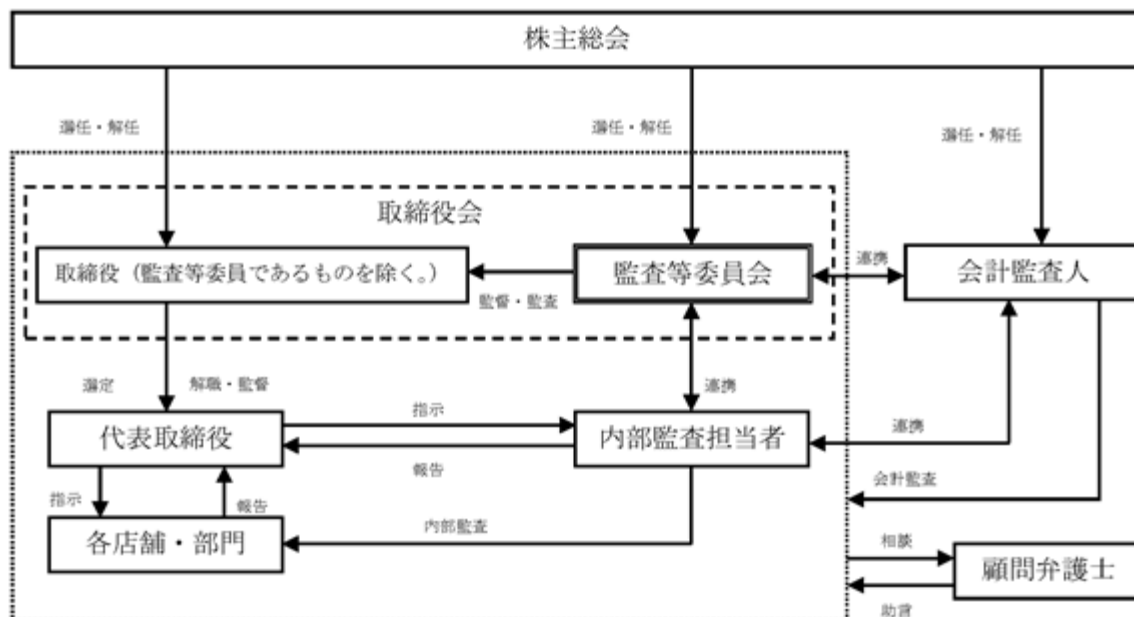
イ．企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

取締役会は取締役(監査等委員である取締役を除く。)4名と監査等委員である取締役3名で構成され、開催しております。定時取締役会を月1回、臨時取締役会を必要に応じて開催し、取締役(監査等委員である取締役を除く。)の業務執行が適法かつ会社の業務運営に合致しているものかについて監督するとともに、重要事項について審議のうえ決議を実施しております。

監査等委員会は、3名の監査等委員である取締役で構成しており、監査方針を策定し、監査結果について協議するとともに、内部監査担当者及び会計監査人との緊密な連携のもとに運営しております。監査等委員である取締役は、取締役会等の重要会議に出席して意思決定の過程及び業務の執行状況を把握、監視しております。なお、3名の監査等委員である取締役を全て社外取締役とすることで、経営の透明性の確保ならびに会社全体の監視・監査の役割を担っております。

なお、当社におきましては、現時点において小規模な組織体制であるため、監査業務分量や監査等委員である取締役を補助する事務局の設置や内部監査部門との連携等により監査等委員である取締役の日常の監査活動をサポートする体制を整えていること等を考慮し、常勤の監査等委員である取締役は不要と判断しておりますが、適切な企業統治が実現できると考えております。

会社の機関・コーポレート・ガバナンス体制の関係を示すと以下の通りであります。



ロ．内部統制システムの整備の状況及びリスク管理体制の整備の状況
当社の内部統制システムの基本方針の概要は次の通りであります。

- a．取締役(監査等委員である取締役を除く。)の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - ・取締役(監査等委員である取締役を除く。)の職務の執行に係る情報及び文書の取り扱いは、法令及び「文書管理規程」の定めるところにより、適切かつ検索性の高い状態で記録・保存・管理する。
 - ・取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び監査等委員である取締役の要求があった場合には、担当部署はいつでも当該請求のあった文書を提出する。
- b．損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - ・当社のリスク管理に関する基本的事項を定め、経営を取り巻く様々なリスクに対して的確な管理・実践を行うべく「リスク管理規程」を定め、取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び使用人に周知徹底する。
 - ・当社の経営又は事業活動に重大な影響を与える危機が発生したときには、リスクを総合的に認識・評価・管理する組織体として、代表取締役を本部長とする「対策本部」を直ちに設置し、会社が被る損害を防止又は最小限に止める。
 - ・内部監査担当者は、「内部監査規程」に基づく内部監査を通じて、各部門のリスク管理状況を確認する。
- c．取締役(監査等委員である取締役を除く。)の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - ・取締役会を月1回定時に開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催し、取締役会を通じて個々の取締役(監査等委員である取締役を除く。)の業務執行が効率的に行われているかを監督する。
 - ・取締役会は、中期経営計画及び各事業年度の予算を決定し、各部門がその目標達成のための具体案を立案、実行する。
 - ・「取締役会規程」、「組織規程」、「業務分掌規程」及び「職務権限規程」等を定めることにより、取締役会、代表取締役及び各取締役(監査等委員である取締役を除く。)の役割と権限を明確にする。
- d．取締役(監査等委員である取締役を除く。)、使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - ・取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び使用人の職務の執行が、法令及び定款に適合し、かつ企業倫理の遵守及び社会的責任を果たすため、「コンプライアンス規程」を定め、取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び使用人に周知徹底する。
 - ・コンプライアンス体制の構築、維持を図り、法令等に違反する行為、違反の可能性のある行為又は不適切な取引を未然に防止し、取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び使用人の法令遵守体制の強化を図る。
 - ・内部監査担当者は、「内部監査規程」に基づく内部監査を通じて、各部門のコンプライアンス状況、業務執行状況を確認する。
 - ・法令・諸規則及び諸規程に反する行為等を早期に発見し是正すべく、外部の法律事務所を窓口とする内部通報制度を運用する。
- e．当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
 - ・「関係会社管理規程」に基づき、子会社の事業を統括的に管理する部署を定め、子会社におけるコンプライアンス状況、リスク管理状況等を把握するとともに、職務の執行状況の報告を受ける。また、子会社における重要事項の決定にあたっては、当社の取締役会の承認を受けるものとする。
 - ・内部監査担当者は、子会社の内部監査を実施し、業務の適正性を監査する。
 - ・子会社の使用人を内部通報制度の利用者に含める。
- f．監査等委員である取締役の職務を補助すべき使用人に関する事項、当該使用人の取締役(監査等委員である取締役を除く。)からの独立性に関する事項及び監査等委員である取締役の当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
 - ・監査等委員である取締役がその補助すべき使用人(以下、補助使用人という)を置くことを求めた場合は、監査等委員である取締役と協議の上で補助使用人を任命する。
 - ・補助使用人は、原則として業務の執行に係る役職を兼務せず、監査等委員である取締役の指揮命令の下で職務を遂行し、補助使用人の異動・評価等については監査等委員である取締役の同意を要する。
- g．取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び使用人が監査等委員である取締役に報告をするための体制その他の監査等委員である取締役への報告に関する体制

- ・ 当社の取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び子会社の取締役及び使用人は、当社の業務又は業績に影響を与える重要な事項については、速やかに監査等委員である取締役に報告する。
 - ・ 取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び使用人は内部監査の実施状況、リスク管理状況、コンプライアンス状況、内部通報制度で通報された事案の内容の他、監査等委員である取締役からの要請に応じて必要な報告を行う。
- h. 前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
- ・ 当社及び子会社は前号の報告を行った者に対し、当該報告をしたことを理由として不利益な取扱いを行うことを禁止する。
- i. 監査等委員である取締役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続きその他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
- ・ 監査等委員である取締役の職務の執行に必要な費用又は債務については、監査等委員である取締役の請求に従い支払その他の処理を行う。
- j. その他監査等委員である取締役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ・ 代表取締役及び内部監査部門は、監査等委員である取締役と定期的に意見交換を行う。
 - ・ 監査等委員である取締役は取締役会以外の重要な会議にも出席できるものとする。
 - ・ 監査等委員である取締役が法律・会計等の専門家から監査業務に関する助言を受ける機会を保障する。
- k. 反社会的勢力との取引排除に向けた基本的考え方及びその整備状況
- ・ 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切の関係を遮断するとともに、これら反社会的勢力に対しては、関係行政機関や顧問弁護士等と緊密に連携し、全社を挙げて毅然とした態度で対応する。

内部監査及び監査等委員である取締役の監査の状況

当社は現時点において小規模な組織体制であるため、独立した内部監査部署は設けておりませんが、内部監査に関する基本事項を内部監査規程に定め、内部監査担当者(2名)は監査等委員である取締役及び会計監査人との連携のもと、内部統制の状況等について意見交換を行いながら監査を実施しております。具体的には、部門相互監査を行うため、内部監査担当である経営戦略室長が、自己の属する部門を除く当社全体をカバーする業務監査を実施するとともに、代表取締役が任命する経営戦略室以外に所属する内部監査担当者が経営戦略室の業務監査を実施し、必要に応じて改善を促し、フォローアップを行うことにより内部統制の維持改善を図っております。

監査等委員である取締役は、取締役会やその他重要な会議へ出席することによりコーポレート・ガバナンスのあり方やそれに基づき企業運営の状況を監視するとともに、業務及び財産の状況調査等を行うことにより、取締役(監査等委員である取締役を除く。)の業務執行を含む日常の業務内容を監査しております。監査等委員である取締役3名は全て社外取締役であり、それぞれがこれまでに培った専門的経験を活かし、第三者的な観点より経営に関する監視、助言を行うことにより、監査体制の強化を図っております。

監査等委員である取締役は、取締役会で意見または質問を述べるとともに、面談等により取締役(監査等委員である取締役を除く。)から業務執行の状況について聴取や報告を受け、また、重要書類の閲覧等を行うことで、実効性の高い経営の監視に取り組んでおります。

また、監査計画に基づく監査の他に、会計監査人や内部監査担当者との情報交換を積極的に行い、監査の客観性、緻密性、効率性及び網羅性を高めるとともに、知識の共有も図っております。

社外取締役の状況

本書提出日現在における当社の社外取締役は3名であります。社外取締役は、業務執行の妥当性、適法性を客観的に評価は正する機能を有しており、企業経営の透明性を高めるために重要な役割を担っております。当社では、社外の視点を踏まえた実効的なコーポレート・ガバナンスの構築を目的に、社外取締役について、豊富な経験、高い見識に基づき、客観性、中立性ある助言を期待しており、当目的にかなう知識と経験を有していること、また会社との関係、代表取締役その他の取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び主要な使用人との関係を勘案して独立性に問題がないことを社外取締役の選考基準としております。

なお、社外取締役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針は定めておりませんが、選任にあたっては株式会社東京証券取引所における独立役員の独立性に関する判断基準を参考にしております。

また、社外取締役は、内部監査担当者及び会計監査人と適宜情報共有や意見交換を行い、連携を図っております。

社外取締役松本浩介は、他社の代表取締役や取締役を歴任し豊富な経験や幅広い知識を有しており、特に上場会社のCF0の経験も有していることから、上場会社としてのコーポレート・ガバナンスや投資家等に対する会社のアカウンタビリティに関する知見も深く、当社のガバナンス体制の充実、強化が期待できると判断し、社外取締役に選任しております。

社外取締役須田仁之は、他社の取締役や監査役として培われた豊富な経験と高い見識を有しており、当社のガバナンス体制の一層の充実が期待できると判断し、社外取締役に選任しております。

社外取締役吉羽真一郎は、弁護士として培われた豊富な経験及び高い見識を有していることに加え、他社の監査役等を歴任しており、当社のガバナンス体制の一層の当社のガバナンス体制の充実、強化が期待できると判断し、社外取締役に選任しております。

各社外取締役並びに各社外取締役の兼職先と当社との間に、人的関係、資本的关系、取引関係及びその他の利害関係はありません。

会計監査の状況

イ．業務を執行した公認会計士の氏名

笹山直孝（新日本有限責任監査法人・指定有限責任社員 業務執行社員）

新居幹也（新日本有限責任監査法人・指定有限責任社員 業務執行社員）

（注） 継続監査年数については、全員7年以内であるため記載を省略しております。

ロ．監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 7名

その他 3名

責任限定契約の概要

当社と社外取締役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役が、責任の原因となった職務執行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

役員の報酬等

イ．提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる役員の員数(名)
		基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
取締役(監査等委員を除く。) (社外取締役を除く。)	82,050	82,050				4
取締役(監査等委員) (社外取締役を除く。)						
監査役 (社外監査役を除く。)						
社外役員	7,575	7,575				6

(注) 当社は、平成29年5月29日付で監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行しております。

ロ．提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ．役員の報酬等の額の決定に関する方針

役員の報酬については、株主総会の決議により取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び監査等委員である取締役のそれぞれの報酬限度額を決定しております。各取締役の報酬額は、取締役(監査等委員である取締役を除く。)については取締役会の決議により決定し、監査等委員である取締役については監査等委員である取締役の協議により決定しております。

株式の保有状況

保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

区分	前事業年度 (千円)	当事業年度(千円)			
		貸借対照表計上 額の合計額	貸借対照表計上 額の合計額	受取配当金の合 計額	売却損益の合計 額
非上場株式		1,000			(注)
上記以外の株式					

(注)非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「評価損益の合計額」は記載しておりません。

その他当社の定款規定

イ．取締役の定数

当社の取締役(監査等委員である取締役を除く。)は10名以内、監査等委員である取締役は5名以内とする旨を定款に定めております。

ロ．取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、監査等委員である取締役と、それ以外の取締役を区別して選任するものとする旨並びに累積投票によらない旨定款に定めております。また、取締役の選任は、株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

ハ．取締役の任期

当社の取締役(監査等委員である取締役を除く。)の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時まで、監査等委員である取締役の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする旨を定款に定めております。

ニ．中間配当

当社は、取締役会の決議により、毎年8月31日現在の最終の株主名簿に記載または記録された株主等に対し、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能にするためであります。

ホ．株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	12,000	1,000	15,000	
連結子会社				
計	12,000	1,000	15,000	

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社は、新日本有限責任監査法人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務であるコンフォート・レター作成業務に係る対価を支払っております。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬は、当社及び当社連結子会社の規模・特性、監査日数等を考慮し、監査等委員会の同意を得たうえで決定しております。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号「以下「財務諸表等規則」という。」）に基づいて作成しております。
また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成29年3月1日から平成30年2月28日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成29年3月1日から平成30年2月28日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、研修、セミナーに積極的に参加し、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応できる体制を整えております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当連結会計年度 (平成30年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	698,854	812,239
売掛金	210,382	322,255
商品	369,398	455,924
繰延税金資産	16,154	22,159
その他	14,208	12,994
流動資産合計	1,308,998	1,625,574
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	90,635	76,333
その他(純額)	29,988	20,992
有形固定資産合計	120,624	97,326
無形固定資産	6,986	12,453
投資その他の資産		
繰延税金資産	3,852	19,558
その他	57,126	64,780
投資その他の資産合計	60,979	84,339
固定資産合計	188,589	194,119
資産合計	1,497,588	1,819,693
負債の部		
流動負債		
買掛金	77,603	44,164
1年内返済予定の長期借入金	23,244	21,667
未払金	113,362	114,286
未払法人税等	101,695	101,315
ポイント引当金	-	7,288
その他	74,084	85,306
流動負債合計	389,989	374,027
固定負債		
長期借入金	76,324	54,657
退職給付に係る負債	5,261	7,695
資産除去債務	22,895	21,292
固定負債合計	104,481	83,645
負債合計	494,470	457,672
純資産の部		
株主資本		
資本金	127,079	127,079
資本剰余金	117,079	117,079
利益剰余金	758,959	1,117,967
自己株式	-	105
株主資本合計	1,003,117	1,362,020
純資産合計	1,003,117	1,362,020
負債純資産合計	1,497,588	1,819,693

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
売上高	2,869,534	3,441,241
売上原価	1,104,308	1,310,934
売上総利益	1,821,226	2,130,307
販売費及び一般管理費		
販売促進費	452,971	516,863
支払手数料	203,379	264,274
給料及び手当	136,430	174,487
ポイント引当金繰入額	-	7,288
その他	566,638	614,970
販売費及び一般管理費合計	1,359,420	1,577,884
営業利益	461,806	552,422
営業外収益		
受取家賃	1,344	1,216
その他	182	17
営業外収益合計	1,526	1,233
営業外費用		
支払利息	1,618	516
上場関連費用	17,242	-
営業外費用合計	18,861	516
経常利益	444,470	553,139
特別利益		
固定資産売却益	-	2,933
特別利益合計	-	933
特別損失		
店舗移転費用	-	19,239
減損損失	-	32,292
その他	-	451
特別損失合計	-	51,983
税金等調整前当期純利益	444,470	502,089
法人税、住民税及び事業税	144,823	164,791
法人税等調整額	3,747	21,710
法人税等合計	141,075	143,080
当期純利益	303,395	359,008
親会社株主に帰属する当期純利益	303,395	359,008

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
当期純利益	303,395	359,008
包括利益	303,395	359,008
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	303,395	359,008
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

（単位：千円）

	株主資本					純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	10,000	-	455,564	-	465,564	465,564
当期変動額						
新株の発行	117,079	117,079			234,158	234,158
親会社株主に帰属する当期純利益			303,395		303,395	303,395
自己株式の取得					-	-
当期変動額合計	117,079	117,079	303,395	-	537,553	537,553
当期末残高	127,079	117,079	758,959	-	1,003,117	1,003,117

当連結会計年度（自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日）

（単位：千円）

	株主資本					純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	127,079	117,079	758,959	-	1,003,117	1,003,117
当期変動額						
新株の発行					-	-
親会社株主に帰属する当期純利益			359,008		359,008	359,008
自己株式の取得				105	105	105
当期変動額合計	-	-	359,008	105	358,903	358,903
当期末残高	127,079	117,079	1,117,967	105	1,362,020	1,362,020

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	444,470	502,089
減価償却費	20,565	33,394
店舗移転費用	-	19,239
有形固定資産売却損益(は益)	-	933
減損損失	-	32,292
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	1,020	2,434
ポイント引当金の増減額(は減少)	-	7,288
支払利息	1,618	516
売上債権の増減額(は増加)	37,376	111,872
仕入債務の増減額(は減少)	32,768	33,438
たな卸資産の増減額(は増加)	131,917	86,526
未払金の増減額(は減少)	67,194	6,216
その他の資産の増減額(は増加)	37,930	2,964
その他の負債の増減額(は減少)	21,032	5,528
その他	3,399	573
小計	342,781	367,333
利息及び配当金の受取額	42	8
利息の支払額	1,618	516
法人税等の支払額	78,902	167,452
営業活動によるキャッシュ・フロー	262,303	199,372
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	36,625	41,489
無形固定資産の取得による支出	7,447	13,478
差入保証金の差入による支出	2,178	3,813
その他	3,124	3,854
投資活動によるキャッシュ・フロー	49,374	62,636
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	53,447	-
長期借入金の返済による支出	45,091	23,244
株式の発行による収入	230,957	-
その他	75	105
財務活動によるキャッシュ・フロー	239,238	23,349
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	452,167	113,385
現金及び現金同等物の期首残高	246,686	698,854
現金及び現金同等物の期末残高	698,854	812,239

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 1社

連結子会社の名称

ロベルタ ディ カメリーノ ファーイースト株式会社

2 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は連結決算日と一致しております。

3 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

商品

主として総平均法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次の通りであります。

建物及び構築物 5年～50年

無形固定資産

定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

ポイント引当金

顧客に付与したポイントの使用に備えるため、将来行使されると見込まれる額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を採用しております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、投資その他の資産の「その他」に含めて表示していた「繰延税金資産」は、資産の総額の100分の1を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「投資その他の資産」に表示していた60,979千円は、「繰延税金資産」3,852千円、「その他」57,126千円として組み替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当連結会計年度 (平成30年2月28日)
有形固定資産の減価償却累計額	51,969千円	72,210千円

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自平成28年3月1日 至平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自平成29年3月1日 至平成30年2月28日)
	5,244千円	9,933千円

- 2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成28年3月1日 至平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自平成29年3月1日 至平成30年2月28日)
その他(車両運搬具)	-千円	933千円

3 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

(1) 減損損失を認識した資産グループの概要

用途	種類	場所	減損損失(千円)
事業用資産	建物及び構築物、その他 (工具、器具及び備品、ソフトウェア)	東京都千代田区等	32,292
店舗設備	建物及び構築物、その他 (工具、器具及び備品)	IANNE銀座店 (東京都中央区)	14,756

(2) 資産のグルーピング方法

キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、店舗を基礎としグルーピングしております。ただし、ロベルタ事業に関しては、事業全体を基礎としグルーピングしております。

(3) 減損損失の認識に至った経緯

ロベルタ事業のブランディング戦略の見直し及びIANNE銀座店の移転に伴い、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、IANNE銀座店に係る減損損失は、店舗移転費用19,239千円に含めて計上しております。

(4) 減損損失の金額

建物及び構築物	31,617千円
その他(工具、器具及び備品)	10,603 "
無形固定資産(ソフトウェア)	4,828 "
合計	47,048千円

(5) 回収可能性の算定方法

回収可能価額は使用価値により測定しており、いずれも将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスであるため、回収可能価額を零として評価しております。

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
発行済株式				
普通株式(株)	2,000	2,082,000		2,084,000
合計	2,000	2,082,000		2,084,000

(注) 1 平成28年9月16日付で普通株式1株につき1,000株の割合で株式分割を行っており、1,998,000株増加しております。

2 平成28年11月28日を払込期日とする公募による新株式発行株式数51,000株及び平成28年12月28日に払込期日とするオーバーアロットメントによる売出しに関連する第三者割当増資による新株式発行株式数33,000株が増加しております。

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
発行済株式				
普通株式(株)	2,084,000	4,168,000	-	6,252,000
合計	2,084,000	4,168,000	-	6,252,000

(注) 平成29年9月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っており、4,168,000株増加しております。

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
自己株式				
普通株式(株)	-	47	-	47
合計	-	47	-	47

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加47株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次の通りであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
現金及び預金	698,854千円	812,239千円
現金及び現金同等物	698,854千円	812,239千円

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当連結会計年度 (平成30年2月28日)
1年内	41,693千円	39,735千円
1年超	119,963 "	80,041 "
合計	161,657千円	119,776千円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金に限定し、資金調達については主に銀行等金融機関からの借入による方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、原則として百貨店等商業施設運営会社などの信用度の高い相手先に集約すること及び与信管理規程等に従い、取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先毎に残高を管理することにより、リスクの低減を行っております。

営業債務である買掛金は1ヶ月以内の支払期日であり、未払金もその殆どが1ヶ月以内の支払期日です。

借入金の資金用途は、運転資金及び設備投資資金であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されていますが、市場の金利動向に留意しながら資金調達をしております。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

前連結会計年度(平成29年2月28日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	698,854	698,854	-
(2) 売掛金	210,382	210,382	-
資産計	909,237	909,237	-
(1) 買掛金	77,603	77,603	-
(2) 未払金	113,362	113,362	-
(3) 未払法人税等	101,695	101,695	-
(4) 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金含む)	99,568	99,568	-
負債計	392,229	392,229	-

当連結会計年度(平成30年2月28日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	812,239	812,239	-
(2) 売掛金	322,255	322,255	-
資産計	1,134,495	1,134,495	-
(1) 買掛金	44,164	44,164	-
(2) 未払金	114,286	114,286	-
(3) 未払法人税等	101,315	101,315	-
(4) 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金含む)	76,324	76,324	-
負債計	336,089	336,089	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負債

(1) 買掛金、(2) 未払金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)

いずれも変動金利による借入であり、短期間で市場金利を反映し、また、当社グループの信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	697,862	-	-	-
売掛金	210,382	-	-	-
合計	908,245	-	-	-

当連結会計年度(平成30年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	811,130	-	-	-
売掛金	322,255	-	-	-
合計	1,133,386	-	-	-

(注3) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	23,244	21,667	13,860	13,860	13,860	13,077
合計	23,244	21,667	13,860	13,860	13,860	13,077

当連結会計年度(平成30年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	21,667	13,860	13,860	13,860	11,637	1,440
合計	21,667	13,860	13,860	13,860	11,637	1,440

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、退職金規程に基づく退職一時金制度を採用しております。

なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

2 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年 3月 1日 至 平成29年 2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年 3月 1日 至 平成30年 2月28日)
退職給付に係る負債の期首残高	4,241千円	5,261千円
退職給付費用	1,020 "	2,434 "
退職給付に係る負債の期末残高	5,261 "	7,695 "

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年 2月28日)	当連結会計年度 (平成30年 2月28日)
非積立型制度の退職給付債務	5,261千円	7,695千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,261 "	7,695 "
退職給付に係る負債	5,261千円	7,695千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,261 "	7,695 "

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度 1,020千円 当連結会計年度 2,434千円

(ストック・オプション等関係)

1 スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名
該当事項はありません。

2 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社
決議年月日	平成27年2月11日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役1名
株式の種類及び付与数	普通株式 12,000株(注)
付与日	平成27年2月26日
権利確定条件	付与日から権利行使日まで継続して会社または子会社の取締役、監査役、使用人等の身分を有していること。 なお、詳細については、当社と付与者間で締結する「第1回新株予約権割当契約書」で定めております。
対象勤務期間	平成27年2月26日～平成29年2月26日
権利行使期間	平成29年2月27日～平成37年2月11日

会社名	提出会社
決議年月日	平成28年1月19日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役1名
株式の種類及び付与数	普通株式 186,000株(注)
付与日	平成28年2月3日
権利確定条件	付与日から権利行使日まで継続して会社または子会社の取締役、監査役、使用人等の身分を有していること。 なお、詳細については、当社と付与者間で締結する「第2回新株予約権割当契約書」で定めております。
対象勤務期間	平成28年2月3日～平成30年2月3日
権利行使期間	平成30年2月4日～平成38年1月19日

(注) 株式数に換算して記載しております。なお、平成28年8月24日開催の取締役会決議により、平成28年9月16日付で普通株式1株につき1,000株、平成29年7月12日開催の取締役会決議により、平成29年9月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況
ストック・オプションの数

会社名	提出会社	提出会社
決議年月日	平成27年2月11日	平成28年1月19日
権利確定前(株)		
前連結会計年度末	-	186,000
付与	-	-
失効	-	-
権利確定	-	186,000
未確定残	-	-
権利確定後(株)		
前連結会計年度末	12,000	-
権利確定	-	186,000
権利行使	-	-
失効	-	-
未行使残	12,000	186,000

(注) ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。なお、平成28年8月24日開催の取締役会決議により、平成28年9月16日付で普通株式1株につき1,000株、平成29年7月12日開催の取締役会決議により、平成29年9月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。

単価情報

会社名	提出会社	提出会社
決議年月日	平成27年2月11日	平成28年1月19日
権利行使価格(円)	67	67
行使時平均株価(円)	-	-
付与日における公正な評価単価(円)	-	-

(注) 平成29年7月12日開催の取締役会決議により、平成29年9月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。これにより権利行使価格が調整されております。

3 ストック・オプションの権利確定数の見積方法

将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用していません。

4 ストック・オプションの単位当たりの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額及び当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

(1) 当連結会計年度末における本源的価値の合計額

513,414千円

(2) 当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当連結会計年度 (平成30年2月28日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	6,641千円	5,008千円
たな卸資産	9,487 "	11,047 "
資産除去債務	- "	2,456 "
ポイント引当金	- "	2,244 "
その他	25 "	1,401 "
計	16,154千円	22,159千円
繰延税金資産(固定)		
退職給付に係る負債	1,610千円	2,354千円
資産除去債務	7,006 "	6,515 "
減損損失	- "	14,426 "
その他	925 "	2,281 "
計	9,541千円	25,578千円
繰延税金資産合計	25,696千円	47,737千円
繰延税金負債(固定)		
資産除去債務に対応する除去費用	5,689千円	6,019千円
計	5,689千円	6,019千円
繰延税金負債合計	5,689千円	6,019千円
繰延税金資産純額	20,007千円	41,718千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当連結会計年度 (平成30年2月28日)
法定実効税率 (調整)	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	30.8%
所得拡大促進税制による税額控除		2.5
住民税均等割		0.3
その他		0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率		28.5

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

営業店舗用建物等の賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用可能期間を取得から5年～50年と見積り、割引率は0%～2.319%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
期首残高	19,967千円	22,895千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	5,630 "	2,099 "
見積りの変更による増加額	- "	4,026 "
時の経過による調整額	240 "	245 "
資産除去債務の履行による減少額	2,943 "	- "
期末残高	22,895千円	29,267千円

(4) 当該資産除去債務の金額の見積りの変更

当連結会計年度において、不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、退店等新たな情報の入手に伴い、店舗の退去時に必要とされる原状回復費用に関する見積りの変更を行いました。見積りの変更による増加額4,026千円を変更前の資産除去債務残高に加算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの事業セグメントは、ファッションブランドビジネス事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高
(株)デジサーチアンドアドバタイジング	1,502,368

当連結会計年度（自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日）

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高
(株)デジサーチアンドアドバタイジング	1,801,788

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当社グループは、ファッションブランドビジネス事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等に限る。）等
前連結会計年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）
該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日）
該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等
前連結会計年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
主要株主（個人）及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	株デジサーチアンドアドバタイジング	東京都渋谷区	50,000	Webショッピングサイトの制作・コンサルティング・インターネットショップの運営・小売店舗ブランドイメージ構築コンサルティング	（被所有）直接 [19.68]	当社商品の販売	商品の販売	1,502,368	売掛金	78,834
							販売促進費の支払	414,027	未払金	16,907
							手数料の支払	170,096		

- (注) 1 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
- 2 株式会社デジサーチアンドアドバタイジングは、同社の代表取締役である黒越誠治氏及び同氏の資産管理会社が合わせて当社の発行済株式総数の50.0%を保有していたことから、同社は当社のその他の関係会社となっておりましたが、当連結会計年度における当社上場に伴う新株式発行及び同氏による当社株式の一部売出しにより、同社は当社のその他の関係会社には該当しないこととなりました。ただし、黒越誠治氏が引続き当社の主要株主であることから、株式会社デジサーチアンドアドバタイジングは、当社の関連当事者に該当しております。議決権等の所有割合又は被所有割合の [] 内は、緊密な者又は同意している者の被所有割合で外数となっております。
- 3 独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件で行っております。

当連結会計年度(自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主 (個人)及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	(株)デジサーチアンドアドバイザーズ	東京都渋谷区	50,000	Webショッピングサイトの制作・コンサルティング・インターネットショップの運営・小売店舗ブランドイメージ構築コンサルティング	(被所有)直接 [19.68]	当社商品の販売	商品の販売	1,801,788	売掛金	152,982
							販売促進費の支払	477,599	未払金	27,111
							手数料の支払	212,408		

(注) 1 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 議決権等の所有割合又は被所有割合の[]内は、緊密な者又は同意している者の被所有割合で外数となっております。

3 独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件で行っております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
1株当たり純資産額	160.45円	217.86円
1株当たり当期純利益金額	50.10円	57.42円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	48.57円	55.71円

- (注) 1 当社は、平成28年9月16日付で普通株式1株につき1,000株の株式分割、平成29年9月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。
- 2 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	303,395	359,008
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	303,395	359,008
普通株式の期中平均株式数(株)	6,056,071	6,251,986
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	189,843	191,753
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要		

(重要な後発事象)

資金の借入

当社は、平成30年3月22日開催の取締役会決議に基づき、以下の通り資金の借入を実行しております。

借入先	株式会社三井住友銀行	株式会社三菱東京UFJ銀行 (現 株式会社三菱UFJ銀行)
借入金額	250,000千円	50,000千円
借入利率(年利)	固定金利	固定金利
資金用途	運転資金及び設備投資資金	運転資金及び設備投資資金
借入実行日	平成30年3月30日	平成30年4月10日
返済期限	平成33年3月31日	平成33年4月9日
担保等	無担保、無保証	無担保、無保証

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	23,244	21,667	0.62	
1年以内に返済予定のリース債務				
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	76,324	54,657	0.56	平成34年11月30日～ 平成35年6月30日
合計	99,568	76,324		

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	13,860	13,860	13,860	11,637

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	1,174,677	1,823,213	2,516,658	3,441,241
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	258,411	397,430	476,984	502,089
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益金額(千円)	178,624	274,498	329,377	359,008
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	28.57	43.91	52.68	57.42

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	28.57	15.33	8.78	4.74

(注) 当社は、平成29年9月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	658,183	753,208
売掛金	208,828	324,420
商品	369,398	455,924
前払費用	11,906	9,421
繰延税金資産	16,154	22,159
その他	48	1,750
流動資産合計	1,264,519	1,566,884
固定資産		
有形固定資産		
建物	90,279	76,080
構築物	355	252
車両運搬具	1,031	-
工具、器具及び備品	27,877	20,992
建設仮勘定	1,080	-
有形固定資産合計	120,624	97,326
無形固定資産		
ソフトウェア	6,686	12,153
無形固定資産合計	6,686	12,153
投資その他の資産		
投資有価証券	-	1,000
関係会社株式	30,456	30,456
出資金	50	50
繰延税金資産	3,852	19,558
差入保証金	40,033	43,075
保険積立金	12,612	16,224
投資その他の資産合計	87,005	110,365
固定資産合計	214,315	219,845
資産合計	1,478,835	1,786,729

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	71,219	43,846
1年内返済予定の長期借入金	23,244	21,667
未払金	109,346	107,822
未払費用	12,821	15,065
未払法人税等	101,170	101,211
前受金	53,100	35,857
預り金	6,488	7,204
ポイント引当金	-	7,288
資産除去債務	-	7,975
流動負債合計	377,390	347,939
固定負債		
長期借入金	76,324	54,657
退職給付引当金	5,261	7,695
資産除去債務	22,895	21,292
固定負債合計	104,481	83,645
負債合計	481,871	431,584
純資産の部		
株主資本		
資本金	127,079	127,079
資本剰余金		
資本準備金	117,079	117,079
資本剰余金合計	117,079	117,079
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	752,805	1,111,092
利益剰余金合計	752,805	1,111,092
自己株式	-	105
株主資本合計	996,964	1,355,145
純資産合計	996,964	1,355,145
負債純資産合計	1,478,835	1,786,729

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日)	当事業年度 (自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日)
売上高	2,869,534	3,441,241
売上原価		
商品期首たな卸高	237,480	369,398
当期商品仕入高	1,180,225	1,397,461
合計	1,417,706	1,766,859
商品期末たな卸高	369,398	455,924
商品売上原価	1,048,308	1,310,934
売上総利益	1,821,226	2,130,307
販売費及び一般管理費	1, 2 1,360,531	1, 2 1,578,995
営業利益	460,694	551,311
営業外収益		
受取家賃	1,344	1,216
その他	97	16
営業外収益合計	1,441	1,233
営業外費用		
支払利息	1,618	516
上場関連費用	17,242	-
営業外費用合計	18,861	516
経常利益	443,274	552,028
特別利益		
固定資産売却益	-	933
特別利益合計	-	933
特別損失		
店舗移転費用	-	19,239
減損損失	-	32,292
その他	-	451
特別損失合計	-	51,983
税引前当期純利益	443,274	500,977
法人税、住民税及び事業税	144,297	164,401
法人税等調整額	3,619	21,710
法人税等合計	140,677	142,690
当期純利益	302,596	358,287

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）

（単位：千円）

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計			
当期首残高	10,000	-	-	450,208	450,208	-	460,208	460,208
当期変動額								
新株の発行	117,079	117,079	117,079				234,158	234,158
当期純利益				302,596	302,596		302,596	302,596
自己株式の取得							-	-
当期変動額合計	117,079	117,079	117,079	302,596	302,596	-	536,755	536,755
当期末残高	127,079	117,079	117,079	752,805	752,805	-	996,964	996,964

当事業年度（自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日）

（単位：千円）

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計			
当期首残高	127,079	117,079	117,079	752,805	752,805	-	996,964	996,964
当期変動額								
新株の発行							-	-
当期純利益				358,287	358,287		358,287	358,287
自己株式の取得						105	105	105
当期変動額合計	-	-	-	358,287	358,287	105	358,181	358,181
当期末残高	127,079	117,079	117,079	1,111,092	1,111,092	105	1,355,145	1,355,145

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

商品

主として総平均法

3 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次の通りであります。

建物 5年～50年

工具、器具及び備品 3年～10年

無形固定資産

定額法を採用しております。

4 引当金の計上基準

イ.ポイント引当金

顧客に付与したポイントの使用に備えるため、将来行使されると見込まれる額を計上しております。

ロ.退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、退職給付引当金を計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を採用しております。

5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示されたものを除く)

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
短期金銭債権	4,440千円	5,390千円
短期金銭債務	9,375 "	7,761 "

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自平成28年3月1日 至平成29年2月28日)	当事業年度 (自平成29年3月1日 至平成30年2月28日)
営業取引による取引高		
販売費及び一般管理費	1,111 千円	1,111 千円

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度69%、当事業年度71%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度31%、当事業年度29%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次の通りであります。

	前事業年度 (自平成28年3月1日 至平成29年2月28日)	当事業年度 (自平成29年3月1日 至平成30年2月28日)
給料及び手当	136,430千円	174,487千円
販売促進費	452,971 "	516,863 "
支払手数料	203,379 "	264,274 "
減価償却費	20,162 "	33,394 "
ポイント引当金繰入額	- "	7,288 "

(有価証券関係)

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は30,456千円、前事業年度の貸借対照表計上額は30,456千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、子会社株式の時価を記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	6,641千円	5,008千円
たな卸資産	9,487 "	11,047 "
資産除去債務	- "	2,456 "
ポイント引当金	- "	2,244 "
その他	25 "	1,401 "
計	16,154千円	22,159千円
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金	1,610千円	2,354千円
資産除去債務	7,006 "	6,515 "
減損損失	- "	14,426 "
その他	925 "	2,281 "
計	9,541千円	25,578千円
繰延税金資産合計	25,696千円	47,737千円
繰延税金負債(固定)		
資産除去債務に対応する除去費用	5,689千円	6,019千円
計	5,689千円	6,019千円
繰延税金負債合計	5,689千円	6,019千円
繰延税金資産純額	20,007千円	41,718千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年2月28日)	当事業年度 (平成30年2月28日)
法定実効税率 (調整)	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	30.8%
所得拡大促進税制による税額控除		2.5
住民税均等割		0.3
その他		0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率		28.5

(重要な後発事象)

資金の借入

当社は、平成30年3月22日開催の取締役会決議に基づき、以下の通り資金の借入を実行しております。

借入先	株式会社三井住友銀行	株式会社三菱東京UFJ銀行 (現 株式会社三菱UFJ銀行)
借入金額	250,000千円	50,000千円
借入利率(年利)	固定金利	固定金利
資金用途	運転資金及び設備投資資金	運転資金及び設備投資資金
借入実行日	平成30年3月30日	平成30年4月10日
返済期限	平成33年3月31日	平成33年4月9日
担保等	無担保、無保証	無担保、無保証

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産						
建物	107,582	33,166	31,300 (31,300)	16,065	109,448	33,367
構築物	388	256	316 (316)	43	328	75
車両運搬具	4,873	-	4,873	344	-	-
工具、器具及び備品	58,669	17,929	16,839 (10,603)	14,063	59,759	38,766
建設仮勘定	1,080	800	1,880	-	-	-
有形固定資産計	172,593	52,152	55,209 (42,220)	30,516	169,536	72,210
無形固定資産						
ソフトウェア	7,987	13,478	5,368 (4,828)	2,877	16,097	3,944
無形固定資産計	7,987	13,478	5,368 (4,828)	2,877	16,097	3,944

(注) 1 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

建物	I A N N E 銀座店	10,612千円
工具、器具及び備品	"	9,781 "
建物	A T A O 名古屋店	12,427 "
構築物	"	256 "
工具、器具及び備品	"	1,496 "
ソフトウェア	本社	13,245 "

2 当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。

建物	I A N N E 銀座店	10,187千円
工具、器具及び備品	"	4,568 "
建物	ロベルタ事業	21,112 "
構築物	"	316 "
工具、器具及び備品	"	6,034 "
ソフトウェア	"	4,828 "

3 当期減少額欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

4 当期首残高及び当期末残高は取得価額により記載しております。

【引当金明細表】

(単位：千円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
ポイント引当金		7,288		7,288

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎事業年度末日の翌日から3か月以内
基準日	毎事業年度末日
剰余金の配当の基準日	毎年8月31日、2月末日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。但し、電子公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次の通りです。 http://www.atao.co.jp
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨を定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 取得請求権付株式の取得を請求する権利
- (3) 募集株式又は募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第13期）（自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日）平成29年5月30日近畿財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年5月30日近畿財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第14期第1四半期）（自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日）平成29年7月12日近畿財務局長に提出

（第14期第2四半期）（自 平成29年6月1日 至 平成29年8月31日）平成29年10月11日近畿財務局長に提出

（第14期第3四半期）（自 平成29年9月1日 至 平成29年11月30日）平成30年1月10日近畿財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成29年5月31日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

平成30年4月13日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（提出会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象）に基づく臨時報告書であります。

平成30年5月29日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

(5) 臨時報告書の訂正報告書

平成30年4月19日近畿財務局長に提出

平成30年4月13日提出の企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（提出会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象）に基づく臨時報告書に係る訂正報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成30年5月29日

株式会社スタジオアタオ

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 笹山 直孝

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 新居 幹也

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社スタジオアタオの平成29年3月1日から平成30年2月28日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社スタジオアタオ及び連結子会社の平成30年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年5月29日

株式会社スタジオアタオ

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 笹山 直孝

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 新居 幹也

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社スタジオアタオの平成29年3月1日から平成30年2月28日までの第14期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社スタジオアタオの平成30年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。